

POWER AMPLIFIER

---

**PX10**

**PX8**

**PX5**

**PX3**

リファレンスマニュアル

# 目次

## はじめに 3

特長	3
マニュアル構成	3
PXアンプの使用例	4
フルレンジスピーカー 2台を使用する例	4
フルレンジスピーカー 1台と サブウーファー 1台を使用する例	4
フルレンジスピーカー 1台をバイアンプでドライブする例	5
ステレオ信号をサブウーファー 1台で使用する例	5
PXアンプのシステム構成	6
PXアンプの信号処理	7
入力感度とアンプゲイン	7

## 各部の名称と機能 8

フロントパネル	8
リアパネル	9

## セットアップ 10

セットアップの手順	10
ラックマウント	11
スピーカーの接続	11
[SPEAKERS]端子の結線	11

## パネル操作 12

基本操作	12
ベーシックモードとアドバンスモード	12
画面構成	13
アラートメッセージ	14

パネルロック	14
HOME画面	15
CONFIG VIEW画面	16
MENU画面	17
MENU画面の種類	17
操作方法	17
操作ツリー	18
CONFIG WIZARD画面(ベーシックモード)	20
SP TYPE (スピーカータイプ)	20
SP SERIES (スピーカーシリーズ)	20
SP MODEL (スピーカーモデル)	20
HPF (ハイパスフィルター)	21
LPF (ローパスフィルター)	21
X-OVER (クロスオーバー)	21
CONFIRMATION (確認)	21
CONFIG WIZARD画面(アドバンスモード)	22
WIZARD MODE (ウィザードモード)	22
SP TYPE (スピーカータイプ)	22
ROUTING (ルーティング)	23
SENS./GAIN (入力感度/アンプゲイン)	24
SP SERIES (スピーカーシリーズ)	24
SP MODEL (スピーカーモデル)	24
SP IMPEDANCE (スピーカーインピーダンス)	24
CONFIRMATION (確認)	24
TUNING画面	25
D-CONTOUR	25
DELAY (ディレイ)	26
X-OVER (クロスオーバー)	26
HPF (ハイパスフィルター)	27
LPF (ローパスフィルター)	27
POLARITY (スピーカー極性)	28
SP DELAY	28
EQ (6 Band PEQ)	29
LEVEL (出力レベル)	29

LIMITER (リミッター)	30
CHANNEL LINK (チャンネルリンク)	30
CHANNEL COPY (チャンネルコピー)	30
SAVE/LOAD (セーブ/ロード)	31
AMP PRESET画面	32
RECALL (リコール)	32
STORE (ストア)	32
CLEAR (クリア)	32
TITLE (タイトル)	33
PROTECT (プロテクト)	33
UTILITY画面	34
PANEL SETUP (パネル設定)	34
PANEL LOCK (パネルロック)	34
HOME SCREEN (HOME画面)	35
IMPORT SP PRESET (スピーカープリセット読み込み)	35
DEVICE BACKUP (デバイスバックアップ)	36
DEVICE INFORMATION (デバイス情報)	36
INITIALIZE (初期化)	36
LOG (ログ)	37
PXアンプの初期化	37

## 資料 39

機能一覧	39
メッセージリスト	42
困ったときは(トラブルシューティング)	44
一般仕様	46
ブロック図	48
寸法図	49
消費電流と熱放散	50
索引	54

# はじめに

このたびは、ヤマハ パワーアンプリファイアー PX10/PX8/PX5/PX3をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。PXアンプの優れた機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、このリファレンスマニュアルをご使用の前に必ずお読みください。

- PX10/PX8/PX5/PX3 取扱説明書の「安全上のご注意」をご使用の前に必ずお読みください。
- このマニュアルに掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- このマニュアルでは、パワーアンプリファイアー PX10/PX8/PX5/PX3を総称して「PXアンプ」と呼びます。
- このマニュアルでは、特に断りがないかぎりPX10のイラストを使用しています。
- 本製品には、株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。

## 特長

- 軽量ながら最大1000Wもの高出力を実現(PX10)
- ヤマハ独自のClass-D技術とプロセッシング技術により高音質と高信頼性を実現
- ヤマハスピーカーの性能を最大限に引き出すスピーカープリセット
- D-CONTOURを始めとするさまざまなDSP機能
- 各種スピーカーへの最適設定を可能にするコンフィグウィザード
- 豊富な入出力端子

## マニュアル構成

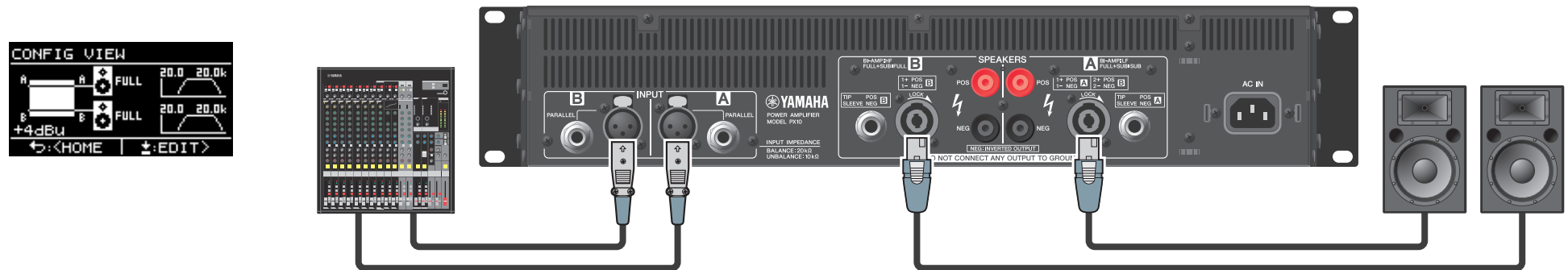
- **取扱説明書(製品に同梱)**  
設置方法と基本的な使用方法などを説明しています。
- **リファレンスマニュアル(本書)**  
設定や操作に必要なすべての項目を説明しています。
- **スペックシート(製品に同梱)**  
詳細仕様(数値、寸法図など)を記載しています。

## PXアンプの使用例

PXアンプは、さまざまな用途で使用することができます。

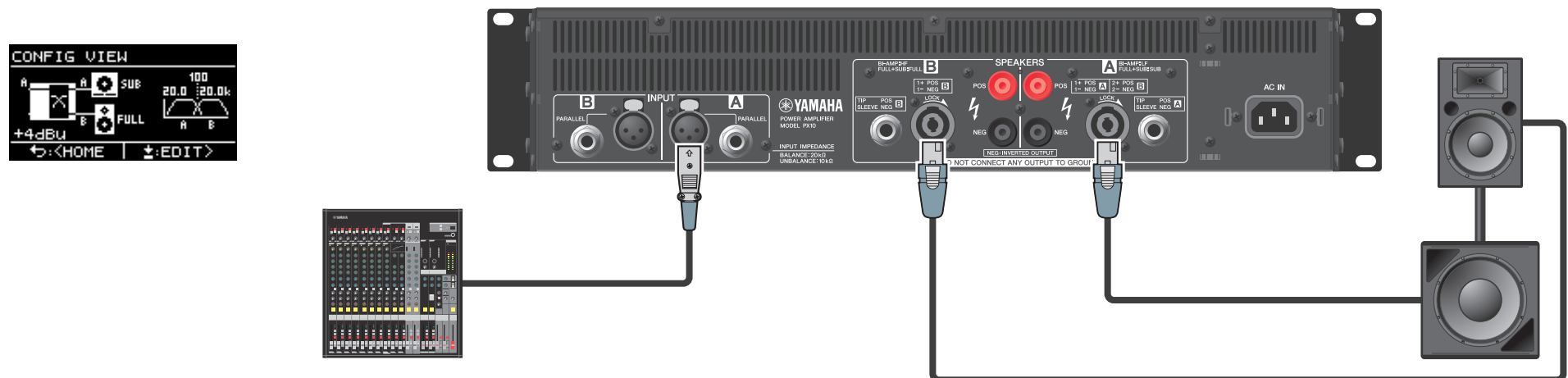
### ■フルレンジスピーカー 2台を使用する例

通常、A/Bそれぞれのチャンネルに、L/Rのステレオ信号を入力し、2台のスピーカーでステレオ再生する用途で使用します。



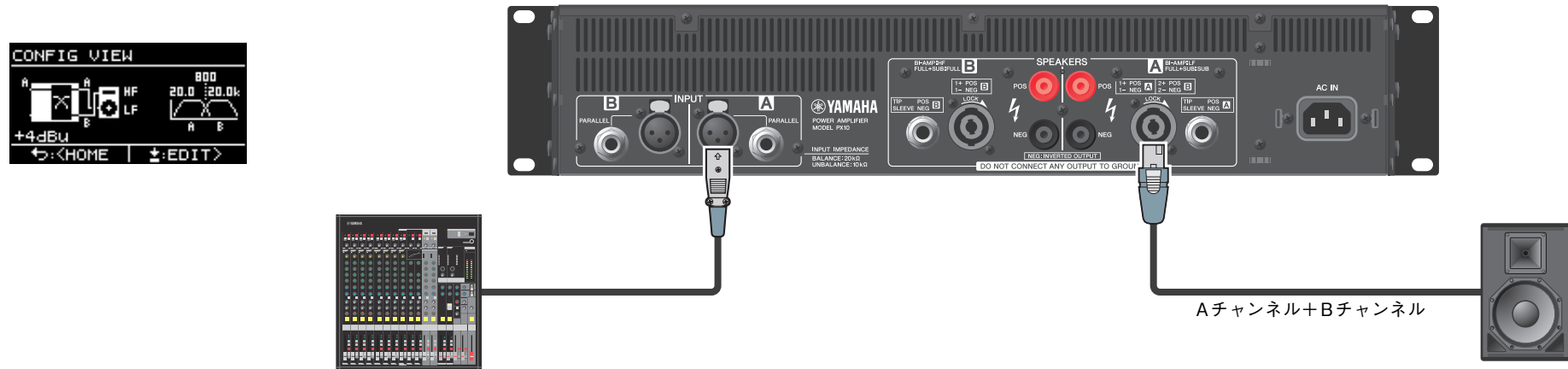
### ■フルレンジスピーカー 1台とサブウーファー 1台を使用する例

1つの信号を周波数帯域によってフルレンジスピーカーとサブウーファーに分けて再生する用途で使用します。



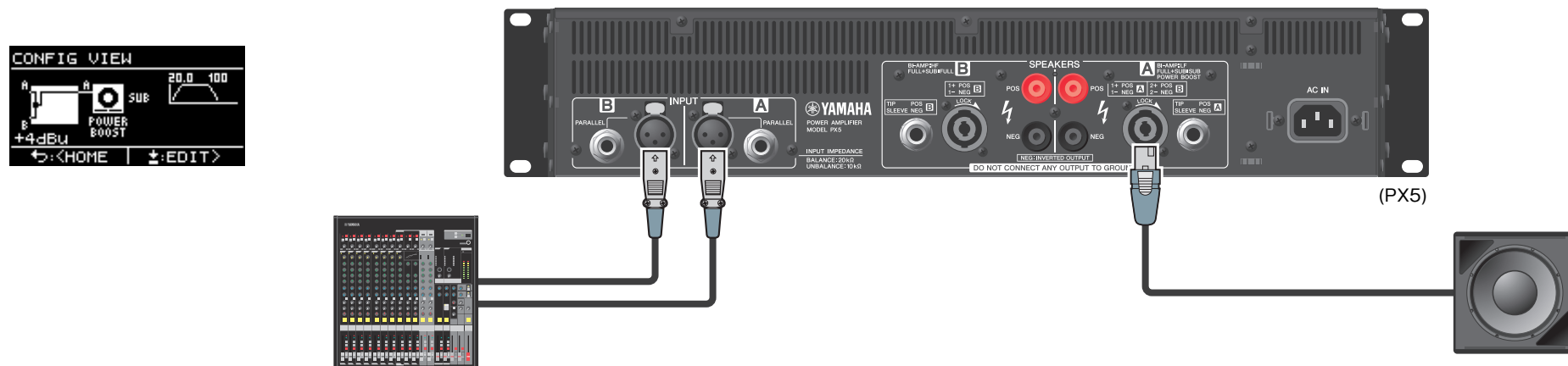
## ■フルレンジスピーカー 1台をバイアンプでドライブする例

2ウェイのフルレンジスピーカーでドライブする際、1つの信号を周波数帯域で分けて再生する用途で使用します。



## ■ステレオ信号をサブウーファー 1台で使用する例

2つの信号を足し合わせて、1つのサブウーファーでパワーブーストモード(PX5/PX3のみ)で再生する用途で使用します。



## ■PXアンプのシステム構成

PXアンプは、上記の例を含め、以下の15種類のシステム構成で使用できます。

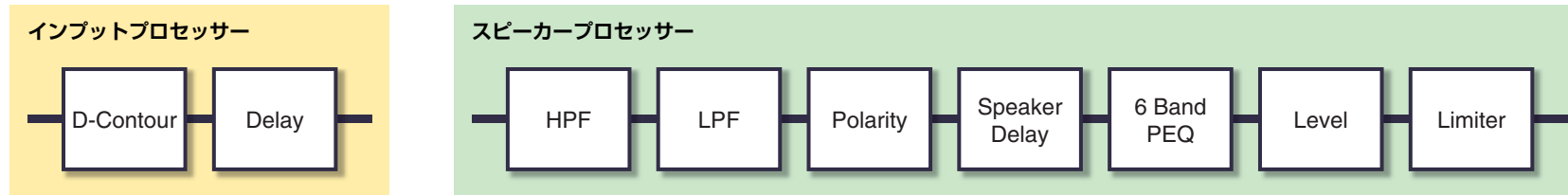
		入力設定 (ルーティング)				
		デュアルモード <b>QUAL</b>	パラレルモード <b>PARALLEL</b>	シングルモード <b>SINGLE</b>	サムモード <b>SUM</b>	
		A/Bチャンネルが独立	Aチャンネルの入力を A/Bチャンネルに分配後に信号処理	Aチャンネルの入力を信号処理後に A/Bチャンネルに分配	A/Bチャンネルの入力をミックス	
出力設定 (スピーカータイプ)	フルレンジスピーカー 2台 <b>FULL+FULL</b>					
	サブウーファー 2台 <b>SUB+SUB</b>					
	フルレンジスピーカー 1台と サブウーファー 1台 <b>FULL+SUB</b>					
	バイアンプのフルレンジスピーカー 1台 <b>BI-AMP</b>					
	フルレンジスピーカー 1台 <b>FULL (MONO)</b>	パワーブースト モード				
	サブウーファー 1台 <b>SUB (MONO)</b>					

### NOTE

パワーブーストモードとは、2チャンネル分のアンプを、ハイパワーな1チャンネルのアンプとして使用するモードです(PX5、PX3のみ)。

## ■PXアンプの信号処理

PXアンプは、インプットプロセッサとスピーカプロセッサで音響調整します。入力端子からの信号は入力端子ごとに装備しているインプットプロセッサで信号処理されます。処理された信号は、経路設定によって加算や分配され、チャンネルごとのスピーカプロセッサで最終的に処理されたあと、[SPEAKERS]端子から出力されます。

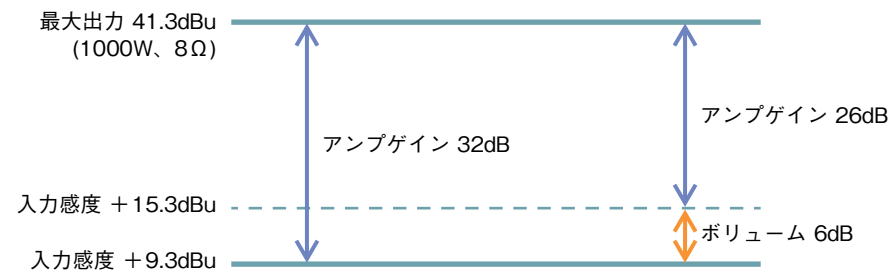


それぞれの処理については、「[パネル操作](#)」の「[TUNING画面](#)」(25ページ)を参照してください。

## ■入力感度とアンプゲイン

PXアンプは、入力感度/アンプゲインの設定を、2種類の入力感度または2種類のアンプゲインから指定できます。入力感度は、最大出力が得られる入力信号のレベルのことです。入力感度以上の信号を入力すると、PXアンプの内部でリミッターがかかります。ボリュームを絞ると入力感度は上がり、アンプゲインは下がります。最大出力はボリュームを絞っても変わりません。

たとえば、PX10ではアンプゲインを32dBに設定すると、最大出力は1000Wで、入力感度は+9.3dBuになります(スピーカインピーダンスが8Ωの場合)。ボリュームを絞っていないとき(0dB)、入力+9.3dBuで出力1000Wが得られます。ボリュームを6dB絞ると、PX10の入力感度は+15.3dBu(=+9.3dBu+6dB)となり、アンプゲインは26dB(=32dB-6dB)になります。+15.3dBuを入力すると最大出力1000Wが得られます。



# 各部の名称と機能

## フロントパネル



### ① 電源ボタン

電源をオン/オフするスイッチです。

#### ⚠ 警告

スピーカーから大きなノイズが出ないように、音源、ミキサーやプロセッサ、アンプの順に電源を入れてください。電源を切るときは、逆の順序で切ってください。

### ② [POWER] インジケータ

電源がオンのときに点灯します。

### ③ [ALERT] インジケータ

機器がトラブルを検出した場合に点灯します。トラブルの原因が解決されるまで点灯しつづけます。

#### NOTE

トラブルの内容は、ディスプレイ(⑧)に表示されます。「HOME画面」(15ページ)の[**1**]アイコンをメインノブで選択すると動作ログが表示されます。

### ④ [USB] インジケータ

使用できるUSBメモリーを[USB]端子に挿している場合に点灯します。USBメモリーにアクセスしている間は点滅します。

#### 注記

[USB]インジケータが点滅している間は、USBメモリーを抜かないでください。PXアンプの内部やUSBメモリーのデータが壊れる可能性があります。

### ⑤ [CLIP/LIMIT] インジケータ

アンプやスピーカーを保護するためリミッターが動作している間や、入力信号がデジタル回路でオーバーしたり、アンプ出力でクリップしたときに点灯します。

### ⑥ [SIGNAL] インジケータ

最大出力レベル(8Ω)に対して-60dB以上の出力があるときに点灯します。

### ⑦ [PROTECT] インジケータ

保護回路が動作している場合に点灯します。

### ⑧ ディスプレイ

PXアンプの状態や設定メニューなどを表示します。詳しくは「画面構成」(13ページ)を参照してください。

#### NOTE

- パネル操作していないときに、ディスプレイやインジケータを自動的に消灯するように設定できます(ブラックアウト/34ページ)。
- ディスプレイ保護のため、1分間の無操作で画面が暗くなります。そのまま20分間の無操作でディスプレイの表示が消えます。再度表示させるには、フロントパネルのいずれかのキーを押すか、ノブを回してください。

### ⑨ [MENU] キー

押すとMENUのトップ画面に移動します。

### ⑩ [←](バック)キー

押すと1つ上の階層や1つ前の画面に移動します。長く押すとHOME画面に戻ります。

### ⑪ メインノブ

回すとパラメーターの値の変更やカーソルの位置の移動ができます。押すと設定した値の確定や選択項目の決定ができます。

### ⑫ [A]/[B]キー

押すと操作するパラメーターのチャンネル(AチャンネルまたはBチャンネル)を切り替えます。

#### NOTE

メインノブと[A]キーを同時に押すとAチャンネルのミュートを切り替えます。メインノブと[B]キーを同時に押すとBチャンネルのミュートを切り替えます。

### ⑬ [USB] 端子

USBメモリーを挿して、PXアンプ内部のデータを読み書きします。

#### 注記

使用しないときは、端子を保護するため付属のUSBキャップを付けてください。

#### NOTE

[USB]端子を使用するのは、以下のような場合です。

- スピーカープリセットの読み込み:  
IMPORT SP PRESET(35ページ)
- 動作ログの書き出し: LOG(37ページ)
- デバイスバックアップ: DEVICE BACKUP(36ページ)
- SP TUNING DATAのセーブ/ロード:  
SAVE/LOAD(31ページ)

### ⑭ ボリュームノブ

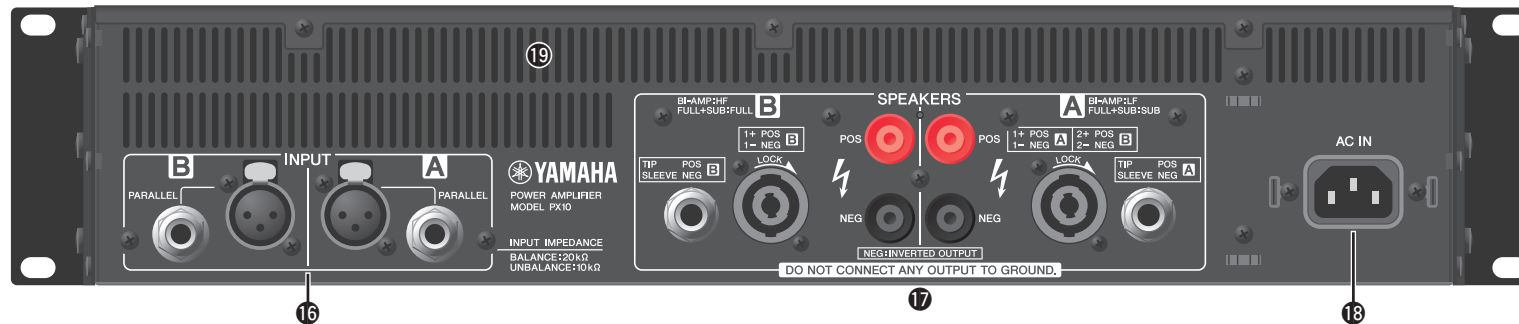
レベルを-∞ dB~0 dBで調整します。「ROUTING」が「DUAL」以外の場合、Bチャンネルのボリュームノブで出力バランスを調整します。

### ⑮ 吸気口

冷却用ファン用の吸気口です。ここから吸気するので、障害物などで吸気口をふさがないようにしてください。



## リアパネル

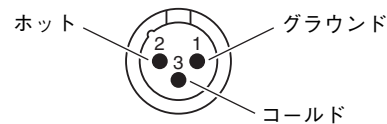


## ⑯ [INPUT] A/B端子

Aチャンネル、Bチャンネルとも2種類の入力端子があります。シングルモードとパラレルモードのときの入力端子はAチャンネルです。

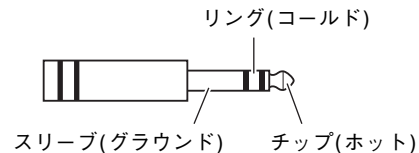
## ・XLR端子

XLR型3-31タイプの端子です。  
極性は次のとおりです (IEC60268)。



## ・フォーン端子

バランス型のTRSフォーン端子です。  
接続する極性は次のとおりです。



## NOTE

それぞれのチャンネルのXLR端子とフォーン端子はパラレル接続しています。XLR端子から入力した信号をフォーン端子から出力して、他のアンプに入力することができます。入力端子として一度に使用できるのは1種類の端子だけなので、2つの入力信号をミックスすることはできません。

## ⑰ [SPEAKERS] A/B端子

スピーカーへの出力端子です。以下の3種類があります。

- Neutrik NL4MD型スピコン端子
- バインディングポスト端子
- フォーン端子

## 注記

- 同じチャンネルの複数の出力端子にスピーカーを同時に接続する場合はパラレル接続になるため、合成インピーダンスが低くなりすぎないようにしてください。
- PXアンプはBTL (Balanced Transformer Less)方式を採用しています。AチャンネルとBチャンネルのマイナス端子同士の接続や、端子とシャーシとの接触は故障や誤動作の原因になります。誤って接続や接触させないでください。

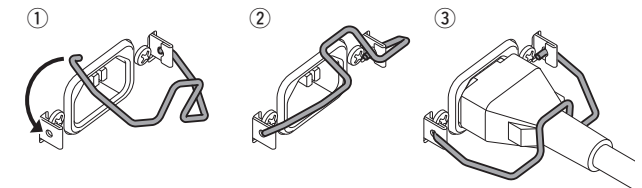
## NOTE

パワーブーストモードのときの出力端子はAチャンネルです。  
(PX5/PX3のみ)

## ⑱ [AC IN] 端子

付属の電源コードを接続します。最初にアンプ本体と電源コードを接続し、次に電源プラグをコンセントに差し込みます。誤って電源コードが[AC IN]端子から外れないように、付属の誤脱防止クランプで電源コードを固定してください。

## 誤脱防止クランプの取り付け方



## ⑲ 排気口

冷却用ファン用の排気口です。ここから排気するので、障害物などで排気口をふさがないようにしてください。

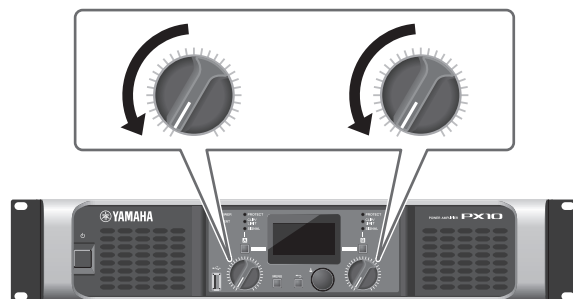
# セットアップ

## セットアップの手順

### 1. PXアンプを設置する。

ラックマウントする場合は、「ラックマウント」(11ページ)を参照してください。

### 2. 2つのボリュームノブを絞る。

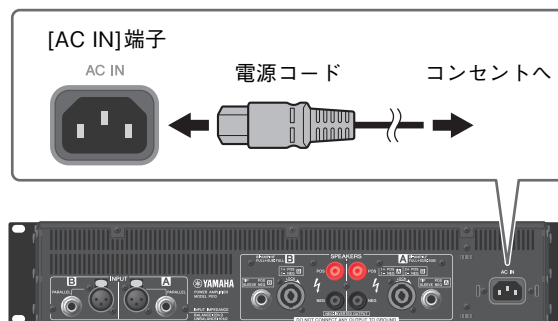


### 3. [SPEAKERS] 端子にスピーカーを接続する。

「スピーカーの接続」(11ページ)を参照してください。

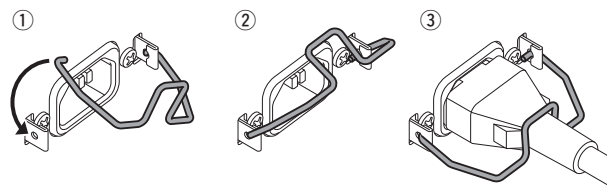
### 4. [INPUT] 端子にミキサーなどの音源からの出力を接続する。

### 5. 電源コードを [AC IN] 端子に接続する。



誤って電源コードが[AC IN]端子から外れないように、付属の誤脱防止クランプで電源コードを固定してください。

#### 誤脱防止クランプの取り付け方



### 6. 電源を入れる。

#### ⚠ 警告

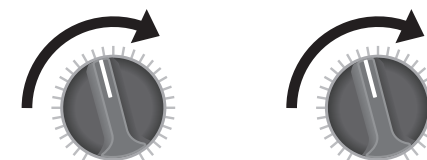
スピーカーから大きなノイズが出ないように、音源、ミキサーやプロセッサー、アンプの順に電源を入れてください。電源を切るときは、逆の順序で切ってください。

### 7. コンフィグウィザードでシステム構成を設定する。

ボリュームノブを適切に設定するだけでも通常のアンプとして使用できますが、コンフィグウィザードで設定することでスピーカーの性能をより発揮させることができます。

「CONFIG WIZARD画面(ベーシックモード)」(20ページ)、「CONFIG WIZARD画面(アドバンスモード)」(22ページ)を参照してください。

### 8. ボリュームノブを回して音量を調整する。



### 9. TUNING画面で音質調整する。

「TUNING画面」(25ページ)を参照してください。この状態で使用できます。

## ラックマウント

PXアンプは、EIA標準ラックにマウントできます(2Uサイズ)。

### ラックマウント時の注意

この機器が動作保証する室温は0～40℃です。この機器を他の機器と一緒にEIA標準のラックにマウントする場合、各機器からの熱でラック内の温度が上昇し、十分な性能を発揮できないことがあります。この機器に熱がこもらないように、必ず以下の条件でラックにマウントしてください。

- 他社製パワーアンプなどの発熱しやすい機器と一緒にマウントする場合は、他の機器との間を1U以上空けてください。また、このスペースは通風パネルを取り付けたり、開放したりして、十分な通気を確保してください。複数のPXアンプを段積みしてマウントすることは可能です。
- ラックの背面を開放して、ラックを壁や天井から10cm以上離し、十分な通気を確保してください。ラック背面を開放できない場合は、ラックに市販のファンキットなどの強制換気装置を取り付けてください。ファンキットを取り付けた場合は、ラックの背面を閉じた方が放熱効果が大きくなることもあります。詳しくはラックおよびファンキットの取扱説明書を参照してください。

## スピーカーの接続

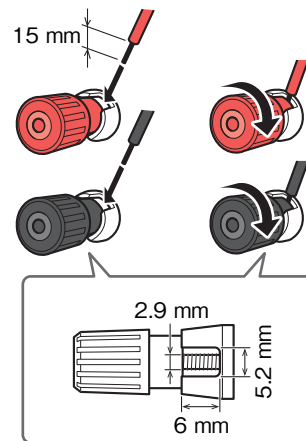
### ■ [SPEAKERS] 端子の結線



**注意**  
必ず電源がオフになっていることを確認してください。オンになっていると感電するおそれがあります。

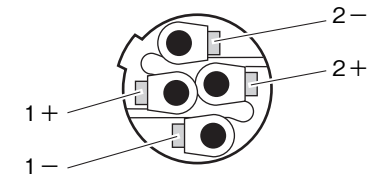
### ● バインディングポスト端子

スピーカーケーブルの先端の被覆を15 mm外し、台座の隙間から差し込んで端子を締め付けます。このとき、芯線がシャーシに当たらないようにしてください。



### ● スピコン端子

スピコンケーブルプラグを差し込み、右に回してロックします。



#### Aチャンネル

Neutrik NL4	PXアンプ
1+	A+
1-	A-
2+	B+
2-	B-

#### Bチャンネル

Neutrik NL4	PXアンプ
1+	B+
1-	B-
2+	(接続なし)
2-	(接続なし)

# パネル操作

## 基本操作

### ■ ベーシックモードとアドバンスモード

PXアンプの設定方法には、ベーシックモードとアドバンスモードの2種類があります。

ベーシックモードは、最低限の設定だけで簡単に使用したいときに便利です。アドバンスモードは、詳細に設定したいときに使用します。

それぞれにHOME画面とMENU画面があります。

#### 画面の例

HOME画面(ベーシックモード)



MENU画面(アドバンスモード)

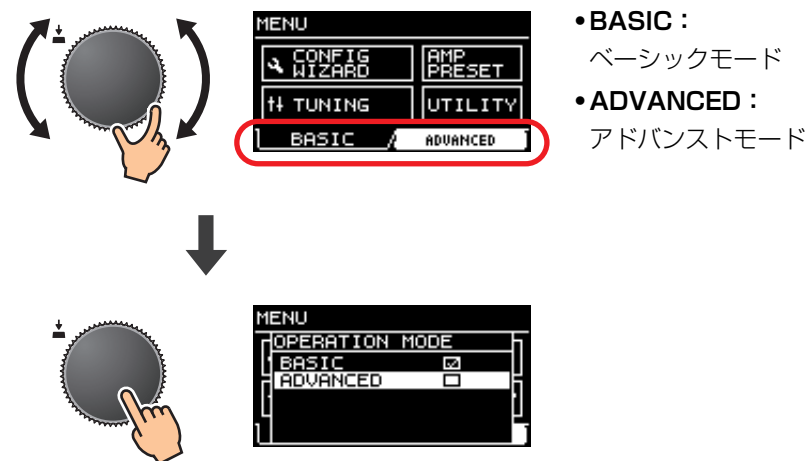


### ● ベーシックモードとアドバンスモードを切り替えるには

1. [MENU]キーを押し、MENU画面に入る。

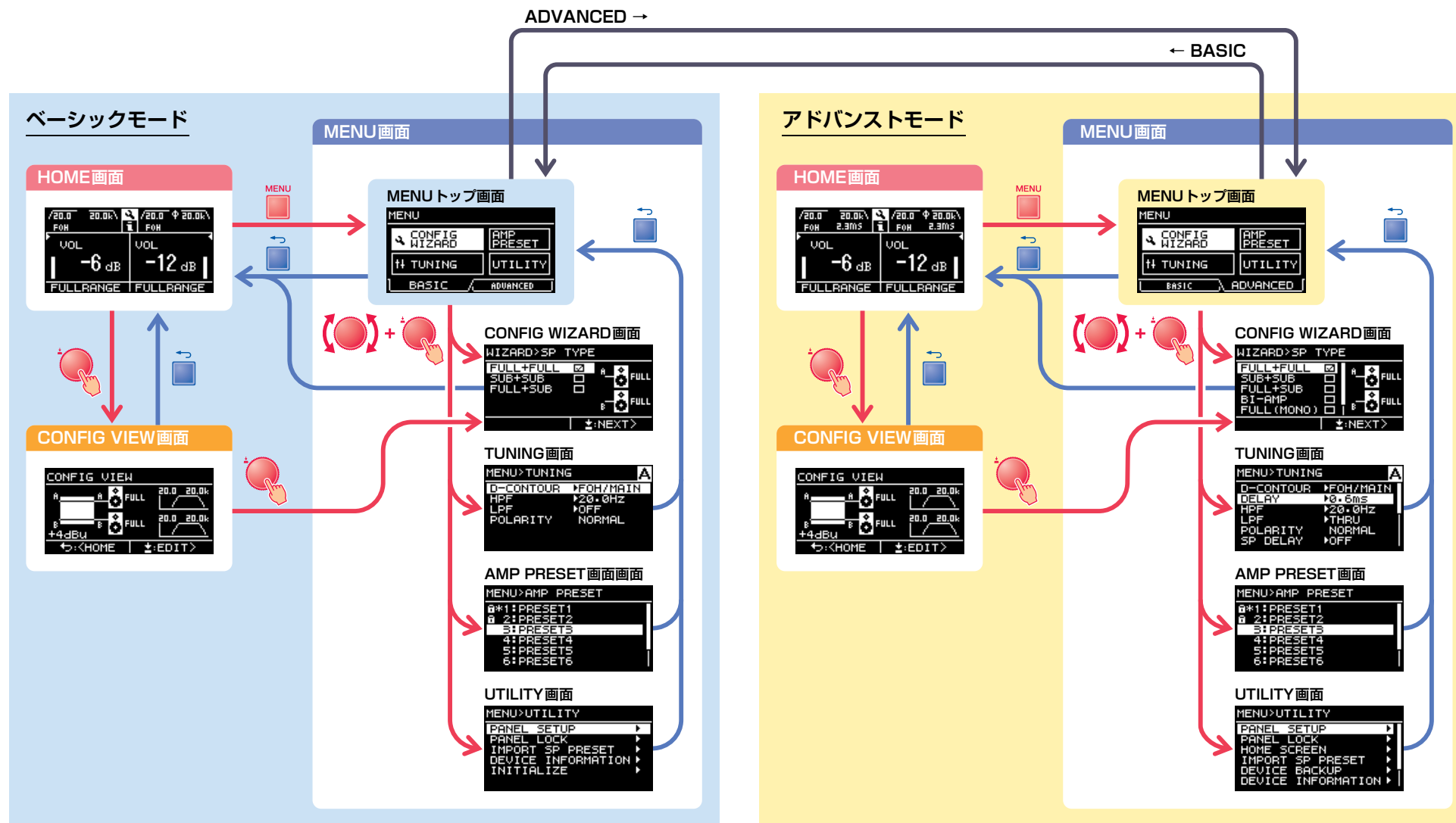


2. メインノブを回して切り替えたいモードのタブを選び、メインノブを押す。



## 画面構成

PXアンプの画面は、ベーシックモードとアドバンスモードで異なります。HOME画面やMENU画面のCONFIG WIZARD画面などはどちらのモードにもありますが、表示される項目に違いがあります。モードを切り替えるときは、MENU画面のOPERATION MODE画面を使用します。



## アラートメッセージ

PXアンブに異常が発生すると、[ALERT]インジケータが点灯しディスプレイにアラートメッセージを表示します。それぞれのアラートの詳細については、巻末の「メッセージリスト」(42ページ)を参照してください。

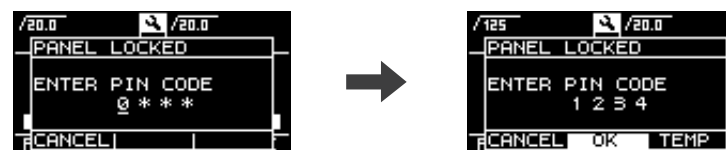


## パネルロック

誤ってPXアンブを操作しないように、パネルロックすることができます。その際に、PINコードという4桁の認証番号を設定することもできます。設定方法については「UTILITY画面」 — 「PANEL LOCK」(34ページ)を参照してください。

### ● パネルロックを解除するには

パネルロック中にパネルを操作すると、画面に以下のようなメッセージが表示されます。



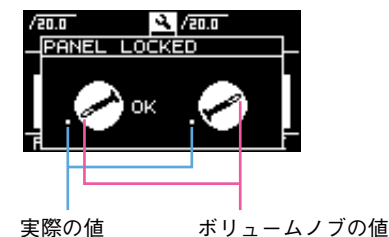
解除するには、メインノブを回してPINコード入力し「OK」を選んでから、メインノブを押します。

#### NOTE

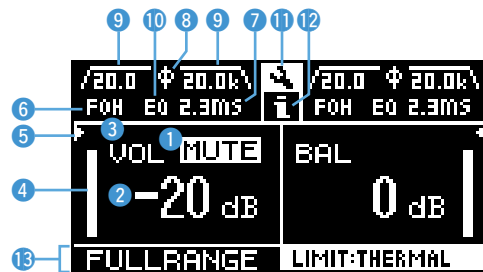
- 一時的に解除する場合は「TEMP」を選んでください。「TEMP」を選んだ場合は、電源を切って入れなおすとパネルロックの状態に戻ります。
- PINコードが設定されているときは、設定するときと同じようにPINコードを入力してください。

#### NOTE

「ALL」でロックしている間にボリュームノブを操作した場合、ロックを解除すると以下のような画面を表示します。ボリュームノブを実際の値に一致するように回してください。一致させるまでボリュームの値を変えることはできません。



## HOME画面



### ① ミュート表示

ミュートしたときに表示します。

### ② ボリューム表示

ボリュームノブによる設定を表示します。

パワーブーストモードでは、Aチャンネルのみを表示します。

### ③ VOL/BAL/GAIN表示

ボリューム表示(②)に何を表示しているかを示します。

- VOL：入力ボリューム
- BAL：出力バランス
- GAIN：トータルゲイン(入力端子からスピーカー出力端子までのゲイン)

#### NOTE

表示する内容は入力設定(ルーティング)で決まります。

- デュアルモード：A/Bチャンネルとも入力ボリュームまたはトータルゲインを表示します。
- デュアルモード以外：Aチャンネルが入力ボリュームまたはトータルゲイン、Bチャンネルが出力バランスを表示します。(ただし、パワーブーストモードではAチャンネルのみを表示します。)

入力ボリュームとトータルゲインのどちらを表示するかは、[UTILITY画面—HOME SCREEN画面の「dB VALUE」\(35ページ\)](#)で設定します。

### ④ レベルメーター

入力または出力のレベルを表示します。

#### NOTE

入力と出力はUTILITY画面の「[HOME SCREEN](#)」(35ページ)で切り替えます。

### ⑤ スレッシュホールド(閾値)表示

レベルメーターが出力レベルを表示しているときに、スピーカプロセッサのリミッター出力の閾値を「▶」「◀」で表示します。

### ⑥ D-CONTOUR表示

D-CONTOURの状態を表示します。

- OFF：表示しません。
- FOH/MAIN：「FOH」と表示します。
- MONITOR：「MONI」と表示します。

### ⑦ デイレイ表示

デイレイ時間を表示します。オフのときは表示しません。

### ⑧ 極性表示

極性を反転しているときに表示します。

### ⑨ フィルター表示

フィルターのカットオフ周波数を表示します。フィルターをかけていない場合は表示しません。

### ⑩ EQ表示

EQがオンのときに表示します。

### ⑪ CONFIG VIEWアイコン

メインノブを回して選択して、メインノブを押すと、CONFIG VIEW画面を表示します。

### ⑫ [F]アイコン

アラートが発生したときに表示します。メインノブを回して選択して、メインノブを押すと、動作ログを表示します。動作ログについては「[動作ログの表示](#)」(37ページ)を参照してください。

### ⑬ スピーカー名称、クリップ/リミットメッセージ

通常はコンフィグウィザードで設定したスピーカーの名称を表示します。クリップまたはリミットが発生した場合は、関連するメッセージを表示します。

#### NOTE

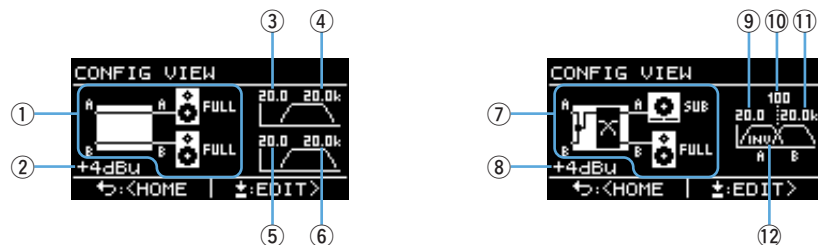
スピーカー名称は、コンフィグウィザードで呼び出したスピーカープリセットを表示します。

#### NOTE

メインノブを回してD-CONTOUR表示、デイレイ表示、極性表示、フィルター表示のグループを選び、メインノブを押すとTUNING画面を表示します。

## CONFIG VIEW画面

HOME画面が表示しているときに、メインノブを押すと表示します。  
現在の設定が一覧できます。



- ① システム構成：6ページ
- ② 入力感度/アンプゲイン：24ページ
- ③ AチャンネルのHPFのカットオフ周波数：21ページ、27ページ
- ④ AチャンネルのLPFのカットオフ周波数：21ページ、27ページ
- ⑤ BチャンネルのHPFのカットオフ周波数：21ページ、27ページ
- ⑥ BチャンネルのLPFのカットオフ周波数：21ページ、27ページ
- ⑦ システム構成：6ページ
- ⑧ 入力感度/アンプゲイン：24ページ
- ⑨ AチャンネルのHPFのカットオフ周波数：21ページ、27ページ
- ⑩ クロスオーバー周波数：21ページ、26ページ
- ⑪ BチャンネルのLPFのカットオフ周波数：21ページ、27ページ
- ⑫ 極性：28ページ

[←](バック)キーを押すとHOME画面に戻ります。

CONFIG VIEW画面を表示している状態でメインノブを押すと、CONFIG WIZARD画面を表示します。



## MENU画面

機器の基本的な状態を設定します。



### ■ MENU画面の種類

MENU画面には、以下の画面があります。

- CONFIG WIZARD画面(ベーシックモード) (アドバンスモード)
- TUNING画面
- AMP PRESET画面
- UTILITY画面

#### NOTE

各MENU画面で設定可能な項目は、巻末の「機能一覧」(39ページ)を参照してください。

### ■ 操作方法

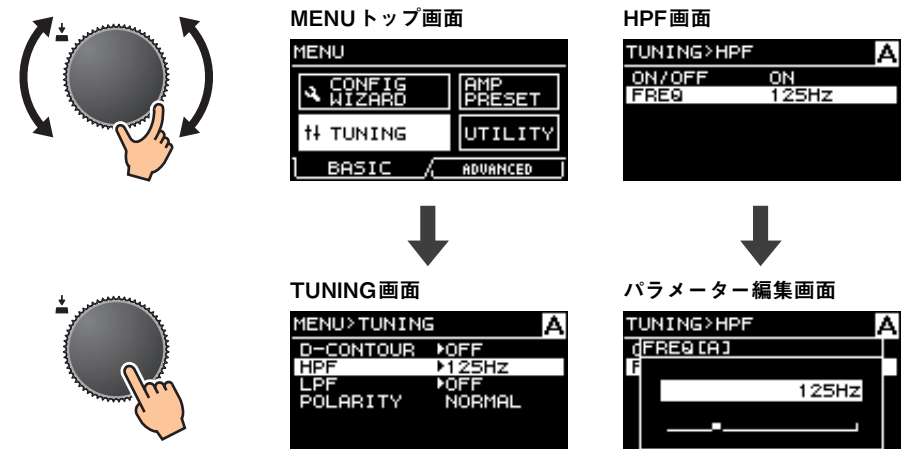
#### ● MENU画面を表示するには

HOME画面で[MENU]キーを押してください。



#### ● MENU画面の下の階層に移動したり、パラメーターの項目を選んだりするには

メインノブを回して移動したい項目を選んでからメインノブを押してください。



#### ● MENU画面の上の階層に移動するには

[←](バック)キーを押してください。



#### NOTE

表示している画面の階層は、画面上部に表示されます。

#### ● HOME画面に戻るには

[←](バック)キーを押し続けてください。



■操作ツリー

カテゴリー	サブカテゴリー	機能説明	ベーシックモード	アドバンストモード	詳細説明
CONFIG WIZARD (ベーシックモード)	SP TYPE	接続するスピーカーの組み合わせを選択します。	○		20ページ
	SP SERIES	接続するスピーカーのシリーズを選択します。	○		20ページ
	SP MODEL	接続するスピーカーを選択します。	○		20ページ
	HPF	HPFのカットオフ周波数を選びます。A/Bチャンネル共通です。	○		21ページ
	LPF	LPFのカットオフ周波数を選びます。A/Bチャンネル共通です。	○		21ページ
	X-OVER	フルレンジスピーカーとサブウーファークロスオーバー周波数を選びます。	○		21ページ
	CONFIRMATION	設定した値を適用します。	○		21ページ
CONFIG WIZARD (アドバンストモード)	WIZARD MODE	現在の設定を編集するか、設定を新たに作りなおすかを選択します。		○	22ページ
	SP TYPE	接続するスピーカーの組み合わせを選択します。		○	22ページ
	ROUTING	入力信号の経路を選択します。		○	23ページ
	SENS./GAIN	入力感度またはアンプゲインを設定します。		○	24ページ
	SP SERIES	接続するスピーカーのシリーズを選択します。		○	24ページ
	SP MODEL	接続するスピーカーを選択します。		○	24ページ
	SP IMPEDANCE	接続するスピーカーのインピーダンスを設定します。		○	24ページ
CONFIRMATION	設定した値を適用します。		○	24ページ	
TUNING	D-CONTOUR	接続するスピーカーの用途に最適な周波数特性に設定します。	○	○	25ページ
	DELAY	スピーカー間の距離を補正するディレイタイムを設定します。		○	26ページ
	X-OVER	クロスオーバー周波数を設定します。	○	○	26ページ
	HPF	ハイパスフィルターを設定します。	※	○	27ページ
	LPF	ローパスフィルターを設定します。	※	○	27ページ
	POLARITY	極性を設定します。	○	○	28ページ
	SP DELAY	スピーカープロセッサのディレイタイムを設定します。		○	28ページ
	EQ	6Band PEQの設定を編集します。		○	29ページ
	LEVEL	出力レベルを設定します。		○	29ページ
	LIMITER	リミッターを設定します。		○	30ページ
	CHANNEL LINK	AチャンネルとBチャンネルでパラメーター設定を連動させます。		○	30ページ
	CHANNEL COPY	チャンネル間で設定をコピーします。		○	30ページ
	SAVE/LOAD	SP TUNING DATAをUSBメモリーにセーブ/ロードします。		○	31ページ

※ 一部の機能のみ

カテゴリー	サブカテゴリー	機能説明	ベーシックモード	アドバンスモード	詳細説明
AMP PRESET	RECALL	設定を呼び出します。	○	○	32ページ
	STORE	設定を保存します。	○	○	32ページ
	CLEAR	設定を消去します。	○	○	32ページ
	TITLE	設定名を編集します。	○	○	33ページ
	PROTECT	設定を誤って変更しないように保護します。	○	○	33ページ
UTILITY	PANEL SETUP	フロントパネルの表示方式を設定します。	※	○	34ページ
	PANEL LOCK	パネルロックを設定します。	○	○	34ページ
	HOME SCREEN	HOME画面の表示内容を設定します。		○	35ページ
	IMPORT SP PRESET	USBメモリーに保存してあるスピーカープリセットデータをPXアンプに読み込みます。	○	○	35ページ
	DEVICE BACKUP	PXアンプの全設定を保存したり、保存した設定をリストアします。		○	36ページ
	DEVICE INFORMATION	機器の中の状態を表示します。	○	○	36ページ
	INITIALIZE	PXアンプ内部のデータの初期化方法をディスプレイに表示します。	○	○	36ページ
	LOG	PXアンプ内部の動作ログを表示したり書き出したりします。		○	37ページ

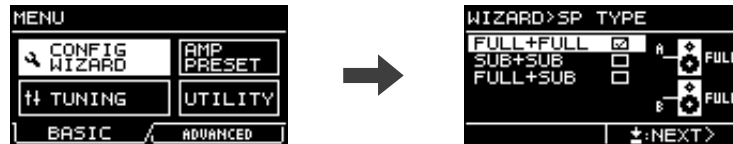
※ 一部の機能のみ

## CONFIG WIZARD画面(ベーシックモード)

コンフィグウィザードを使用することで、基本機能を簡単に設定することができます。

### ⚠ 警告

設定によって音量が変化します。安全のためボリュームを絞った状態で実行してください。



### NOTE

ベーシックモードとアドバンスモードで設定できる項目が違います。詳細な設定をする場合はアドバンスモードに切り替えてください。モードの切り替え方法は「ベーシックモードとアドバンスモードを切り替えるには」(12ページ)を参照してください。

### ■ SP TYPE (スピーカータイプ)

接続するスピーカーの組み合わせを選択します。



- **FULL + FULL :**  
フルレンジスピーカーをA/Bチャンネル両方の[SPEAKERS]端子に接続します。
- **SUB + SUB :**  
サブウーファーをA/Bチャンネル両方の[SPEAKERS]端子に接続します。
- **FULL + SUB :**  
フルレンジスピーカーをBチャンネル、サブウーファーをAチャンネルの[SPEAKERS]端子に接続します。

### ■ SP SERIES (スピーカーシリーズ)

PXアンプに登録してあるモデルから接続するスピーカーのシリーズを選択します。

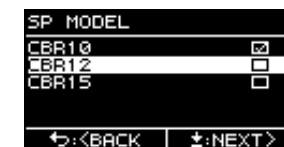


### NOTE

スピーカーを選択すると、フィルターやスピーカーのインピーダンスとリミッターのしきい値が自動で設定されます。接続するスピーカーが選択肢にない場合は「GENERIC」を選択してください。

### ■ SP MODEL (スピーカーモデル)

SP SERIES画面で選択したスピーカーシリーズから接続するスピーカーを選択します。



## ■HPF (ハイパスフィルター)

< 「SP SERIES」 が 「GENERIC」 の場合 >

HPFのカットオフ周波数を選びます。A/Bチャンネル共通です。



### NOTE

ベーシックモードの場合、フィルタータイプは24dB/Oct. Butterworth型に固定されます。

## ■LPF (ローパスフィルター)

< 「AMP MODE」 が 「SUB+SUB」 で、「SP SERIES」 が 「GENERIC」 の場合 >

LPFのカットオフ周波数を選びます。A/Bチャンネル共通です。



### NOTE

ベーシックモードの場合、フィルタータイプは24dB/Oct. Butterworth型に固定されます。

## ■X-OVER (クロスオーバー)

< 「AMP MODE」 が 「FULL+SUB」 で、「SP SERIES」 が 「GENERIC」 の場合 >

フルレンジスピーカーとサブウーファークロスオーバー周波数を選びます。



### NOTE

ベーシックモードの場合、フィルタータイプは24dB/Oct. Linkwitz Riley型に固定されます。

## ■CONFIRMATION (確認)

設定した値を適用します。



設定が正しいことを確認したあとにメインノブを押してください。設定した値が適用されます。

設定を修正する場合は、[←](バック)キーを押して修正する画面まで戻ってください。

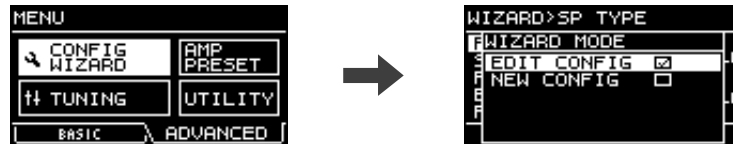
キャンセルする場合は、[MENU]キーを押すか、[←](バック)キーを確認画面が表示されるまで押し続けてください。

## CONFIG WIZARD画面(アドバンスモード)

コンフィグウィザードを使用することで、基本機能を簡単に設定することができます。

### ⚠ 警告

設定によって音量が変化します。安全のためボリュームを絞った状態で実行してください。

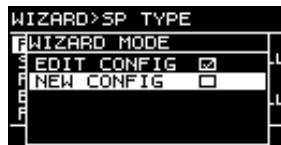


### NOTE

1つ前のパラメーターの設定に戻りたい場合は、[←](バック)キーを押してください。

## ■ WIZARD MODE (ウィザードモード)

設定を始めるパラメーターの状態を以下から選択します。



- **EDIT CONFIG :**  
現在の設定から編集します。
- **NEW CONFIG :**  
設定を新しく作りなおします。

## ■ SP TYPE (スピーカータイプ)

接続するスピーカーの組み合わせを選択します。



- **FULL + FULL :**  
フルレンジスピーカーをA/Bチャンネル両方の[SPEAKERS]端子に接続します。
- **SUB + SUB :**  
サブウーファーをA/Bチャンネル両方の[SPEAKERS]端子に接続します。
- **FULL + SUB :**  
フルレンジスピーカーをBチャンネル、サブウーファーをAチャンネルの[SPEAKERS]端子に接続します。
- **BI-AMP :**  
バイアンプのスピーカーの低音域をAチャンネル、高音域をBチャンネルの[SPEAKERS]端子に接続します。
- **FULL(MONO) :**  
パワーブーストモードでドライブするフルレンジスピーカーをAチャンネルの[SPEAKERS]端子に接続します。(PX5、PX3のみ)
- **SUB(MONO) :**  
パワーブーストモードでドライブするサブウーファーをAチャンネルの[SPEAKERS]端子に接続します。(PX5、PX3のみ)

### NOTE

[ROUTING] (23ページ)との組み合わせについては「PXアンプのシステム構成」(6ページ)を参照してください。

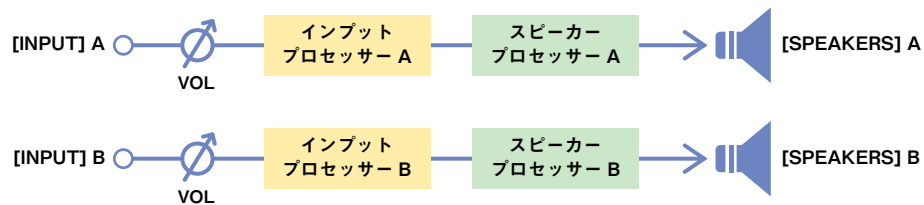
## ■ROUTING (ルーティング)

入力信号の経路をDUAL、PARALLEL、SINGLE、SUMの4種類から選択します。



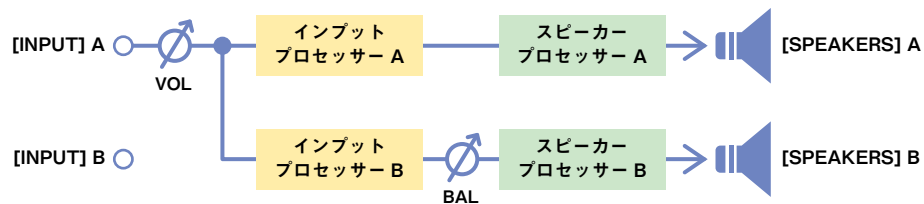
### ・DUAL (デュアルモード) :

Aチャンネルからの入力をAチャンネルに、Bチャンネルから入力をBチャンネルに出力します。



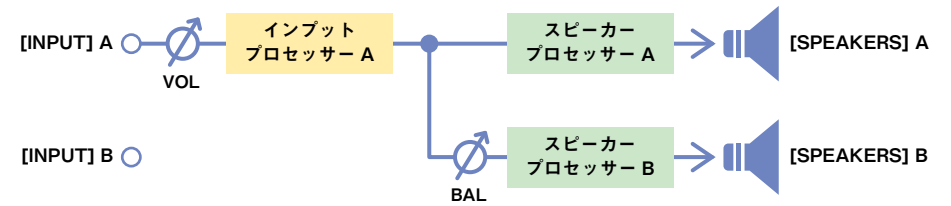
### ・PARALLEL (パラレルモード) :

Aチャンネルからの入力を分配して、AチャンネルとBチャンネルに出力します。  
AチャンネルとBチャンネルで異なる設定が可能です。



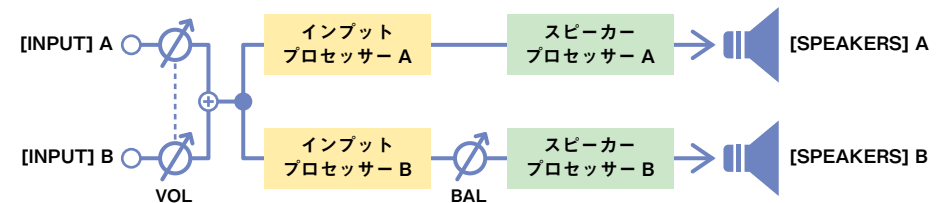
### ・SINGLE (シングルモード) :

Aチャンネルからの入力のみを出力します。



### ・SUM (サムモード) :

AチャンネルとBチャンネルからの入力を足し合わせます。



#### NOTE

ボリュームノブは、Aチャンネルのみ有効です。BチャンネルのボリュームはAチャンネルに連動します。

#### NOTE

- SP TYPE(スピーカータイプ)によっては、選択が制限される場合があります。詳しくは、「PXアンプのシステム構成」(6ページ)を参照してください。
- インプットプロセッサーとスピーカープロセッサーについては「PXアンプの信号処理」(7ページ)を参照してください。設定方法は「TUNING画面」(25ページ)を参照してください。

## ■SENS./GAIN (入力感度/アンプゲイン)

入力感度またはアンプゲインを設定します。

入力感度は+4 dBuと+14 dBuから、アンプゲインは26 dBと32 dBから選択できます。



### NOTE

入力感度やアンプゲインについては「[入力感度とアンプゲイン](#)」(7ページ)を参照してください。

## ■SP SERIES (スピーカーシリーズ)

PXアンプに登録してあるモデルから接続するスピーカーのシリーズを選択します。

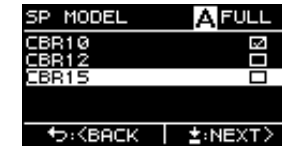


### NOTE

スピーカーを選択すると、フィルターやスピーカーのインピーダンスとリミッターのしきい値が自動で設定されます。接続するスピーカーが選択肢にない場合は「GENERIC」を選択してください。

## ■SP MODEL (スピーカーモデル)

SP SERIES画面で選択したスピーカーシリーズから接続するスピーカーを選択します。

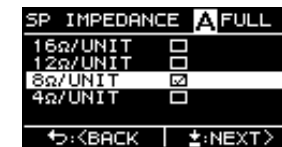


## ■SP IMPEDANCE (スピーカーインピーダンス)

### <「SP SERIES」が「GENERIC」の場合>

接続するスピーカーのインピーダンスを設定します。

複数のスピーカーを並列に接続する場合も、1台あたりのインピーダンスで設定します。



## ■CONFIRMATION (確認)

設定した値を適用します。



設定が正しいことを確認したあとにメインノブを押してください。設定した値が適用されます。

設定を修正する場合は、[←](バック)キーを押して修正する画面まで戻ってください。

キャンセルする場合は、[MENU]キーを押すか、[←](バック)キーを確認画面が表示されるまで押し続けてください。



## TUNING画面

音響調整するインプットプロセッサとスピーカプロセッサを設定します。



### ●インプットプロセッサとスピーカプロセッサ

#### インプットプロセッサ



#### スピーカプロセッサ



### NOTE

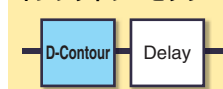
- TUNING画面のパラメーター設定画面で、上部に「A」または「B」の表示があるのは、AチャンネルまたはBチャンネルのパラメーターです。
- [A]キーまたは[B]キーを押すと、設定するチャンネルが切り替わります。

## ■D-CONTOUR

接続するスピーカーの用途に最適な周波数特性に設定します。



#### インプットプロセッサ



#### スピーカプロセッサ



### ① MODE

D-CONTOURのプリセットを切り替えます。以下の項目から選択します。

- **OFF :**  
D-COUNTORをOFFします。
- **FOH/MAIN :**  
メインスピーカーに適した周波数特性になるように高域と低域を持ち上げた設定です。
- **MONITOR :**  
フロアモニターとして明瞭性に重要な中高域を聞こえやすくし、床置きしたときにブーミーになりがちな低域を抑えた設定です。

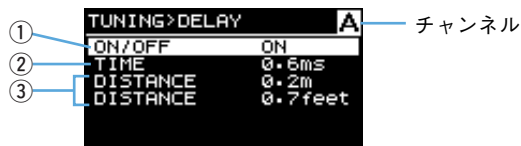
### ② DEPTH

効果のかけ具合を設定します。数字が大きくなるほど、効果が強くなります。

## ■ DELAY (ディレイ)

<アドバンスモードのみ>

スピーカー間の距離を補正するディレイタイムを設定します。時間または距離で設定します。



### インプットプロセッサ



### スピーカープロセッサ



#### ① ON/OFF

ディレイをオン/オフします。

#### ② TIME [ms]

ディレイタイムをミリ秒単位で設定します。

#### ③ DISTANCE

ディレイタイムを距離(メートル単位とフィート単位)で設定します。

### NOTE

3つのディレイタイムの表示は連動して変化します。

## ■ X-OVER (クロスオーバー)

<「SP TYPE」が「FULL+SUB」または「BI-AMP」の場合>

AチャンネルとBチャンネルのクロスオーバー周波数を設定します。



### インプットプロセッサ

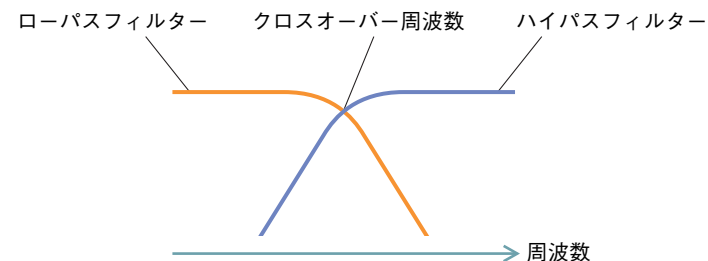


### スピーカープロセッサ



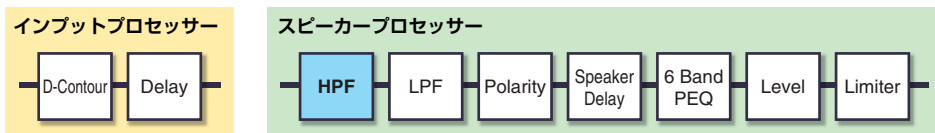
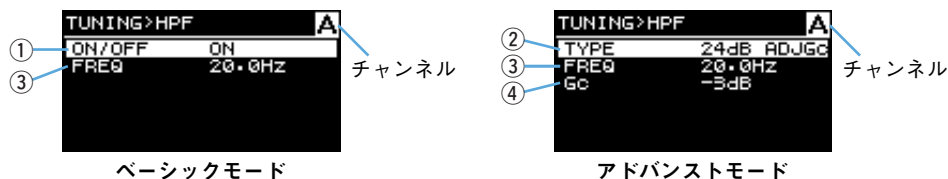
#### ① X-OVER FREQ.

クロスオーバー周波数を設定します。設定したクロスオーバー周波数が、AチャンネルのLPFおよびBチャンネルのHPFのカットオフ周波数になります。



## ■ HPF (ハイパスフィルター)

ハイパスフィルターを設定します。



- ① **ON/OFF**  
 <ベーシックモードのみ>  
 フィルターをオン/オフします。
- ② **TYPE (フィルタータイプ)**  
 <アドバンスモードのみ>  
 オクターブごとの減衰量とフィルタータイプを選択します。

### NOTE

- ・「THRU」を選択した場合は、フィルターはかかりません。
- ・12 dB/Oct以上のフィルターは、Adjustable Gain Control型、Butterworth型、Bessel型、Linkwitz Riley型の4種類から選ぶことができます。それぞれのディスプレイ表示は以下ようになります。

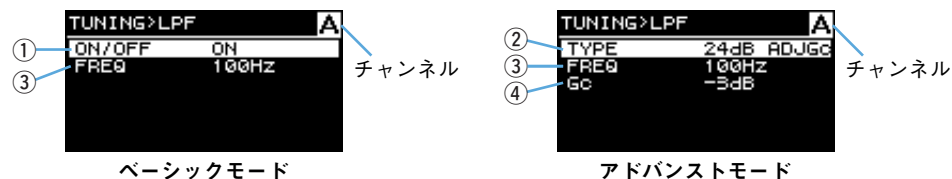
フィルタータイプ	ディスプレイ表示
Adjustable Gain Control型	ADJGc
Butterworth型	BUT
Bessel型	BESSL
Linkwitz Riley型	L-R

たとえば、12 dB/Oct. Butterworth型フィルターは「12dB BUT」と表示されます。

- ③ **FREQ(カットオフ周波数)**  
 HPFのカットオフ周波数を設定します。
- ④ **Gc(カットオフゲイン)**  
 <アドバンスモードのみ>  
 「HPF TYPE」に「AdjustGc」(Adjustable Gc)を選択したときに、カットオフ周波数のゲインを設定します。

## ■ LPF (ローパスフィルター)

ローパスフィルターを設定します。



- ① **ON/OFF**  
 <ベーシックモードのみ>  
 フィルターをオン/オフします。
- ② **TYPE (フィルタータイプ)**  
 <アドバンスモードのみ>  
 オクターブごとの減衰量とフィルタータイプを選択します。

### NOTE

- ・「THRU」を選択した場合は、フィルターはかかりません。
- ・12 dB/Oct以上のフィルターは、Adjustable Gain Control型、Butterworth型、Bessel型、Linkwitz Riley型の4種類から選ぶことができます。それぞれのディスプレイ表示は以下ようになります。

フィルタータイプ	ディスプレイ表示
Adjustable Gain Control型	ADJGc
Butterworth型	BUT
Bessel型	BESSL
Linkwitz Riley型	L-R

たとえば、12 dB/Oct. Butterworth型フィルターは「12dB BUT」と表示されます。

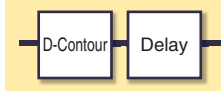
- ③ **FREQ(カットオフ周波数)**  
 LPFのカットオフ周波数を設定します。
- ④ **Gc(カットオフゲイン)**  
 <アドバンスモードのみ>  
 「LPF TYPE」に「AdjustGc」(Adjustable Gc)を選択したときに、カットオフ周波数のゲインを設定します。

## ■ POLARITY (スピーカー極性)

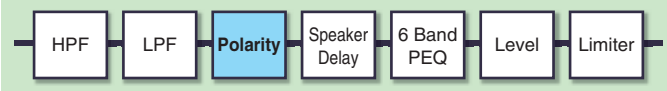
スピーカーどうしの位相の干渉による影響を回避するために極性を設定します。



インットプロセッサー



スピーカープロセッサー



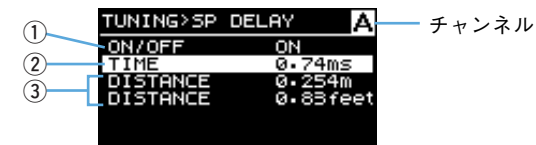
### ① POLARITY

「NORMAL」を選ぶと正相になり、「INVERTED」を選ぶと反転します。

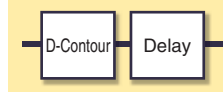
## ■ SP DELAY

### <アドバンスモードのみ>

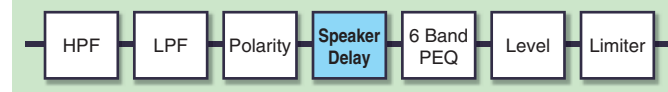
スピーカープロセッサーにあるスピーカーディレイのディレイタイムを設定します。時間または距離で設定します。



インットプロセッサー



スピーカープロセッサー



### ① ON/OFF

ディレイをオン/オフします。

### ② TIME [ms]

ディレイタイムをミリ秒単位で設定します。

### ③ DISTANCE

ディレイタイムを距離(メートル単位とフィート単位)で設定します。

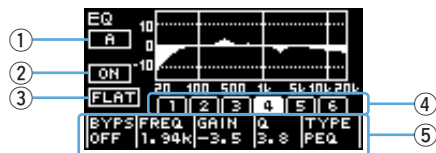
## NOTE

3つのディレイタイムの表示は連動して変化します。

## ■ EQ (6 Band PEQ)

### <アドバンスモードのみ>

スピーカープロセッサにある6 Band PEQの各パラメーターを編集します。



#### インットプロセッサ



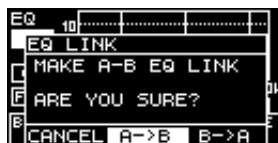
#### スピーカープロセッサ



### ① チャンネル表示

EQの対象チャンネルを表示します。表示するチャンネルはパネルの[A]/[B]キーで選択します。

EQの設定をリンクしている場合は、A+Bと表示されます。



ボタンにカーソルを合わせてノブを押すと、リンクの設定ができます。

#### NOTE

EQのリンクは、チャンネルリンクとは独立して動作します。どのチャンネルタイプのEQでもリンクできます。

### ② ON/OFF

6 Band PEQをオン/オフします。オフのときは、EQ特性の表示が輪郭だけになります。

### ③ FLAT

全バンドのゲインを0 dBに設定します。

### ④ バンド1~6

パラメーターを表示するバンドを選択します。選択したバンドでノブを押すと、カーソルがパラメーター表示に移動します。

### ⑤ パラメーター表示

各バンドのパラメーターを表示します。パラメーター名にカーソルを合わせてノブを押すと、パラメーター値の設定ができます。[←](バック)キーを押すとパラメーター名にカーソルが戻ります。さらにバックキーを押すと、バンドにカーソルが戻ります。

## ■ LEVEL (出力レベル)

### <アドバンスモードのみ>

チャンネル間のバランスを取るために出力レベルを設定します。



#### インットプロセッサ



#### スピーカープロセッサ



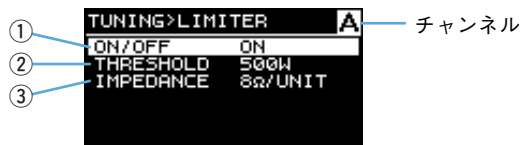
### ① LEVEL

出力レベルを0.1 dB単位で設定します。

## ■LIMITER (リミッター)

<アドバンスモードのみ>

スピーカーを保護するため、スピーカーの仕様によってリミッターの設定を変更します。



インプットプロセッサー



スピーカープロセッサー



### ① ON/OFF

リミッターをオン/オフします。

### ② THRESHOLD

リミッターがかかる閾値を出力パワー (W) で設定します。

#### NOTE

- コンフィグウィザードでスピーカーを選択すると、自動的に設定します。
- スピーカーをパラレル接続する場合も、1台あたりの出力パワーで設定します。

### ③ IMPEDANCE(Ω/UNIT)

接続するスピーカーのインピーダンスを16Ω、12Ω、8Ω、4Ωから選択します。

複数のスピーカーを並列に接続する場合も、1台あたりのインピーダンスで設定します。

## ■CHANNEL LINK (チャンネルリンク)

<アドバンスモードのみ、「SP TYPE」が「FULL + FULL」または「SUB + SUB」の場合>

AチャンネルとBチャンネルでパラメーター設定が連動します。



### ① ON/OFF

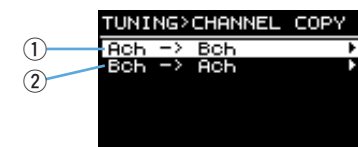
オフからオンにすると、最初にAチャンネルとBチャンネルの設定を同じにします。Aチャンネルで設定したときは、Aチャンネルの設定をBチャンネルにコピーします。

Bチャンネルで設定したときは、Bチャンネルの設定をAチャンネルにコピーします。

## ■CHANNEL COPY (チャンネルコピー)

<アドバンスモードのみ、「SP TYPE」が「FULL + FULL」または「SUB + SUB」の場合>

チャンネル間で設定をコピーします。



### ① Ach -> Bch

Aチャンネルの設定をBチャンネルにコピーします。

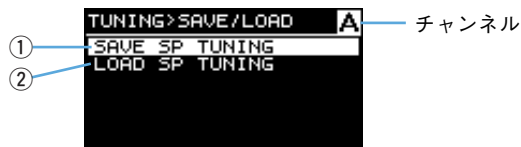
### ② Bch -> Ach

Bチャンネルの設定をAチャンネルにコピーします。

## ■SAVE/LOAD (セーブ/ロード)

### <アドバンスモードのみ>

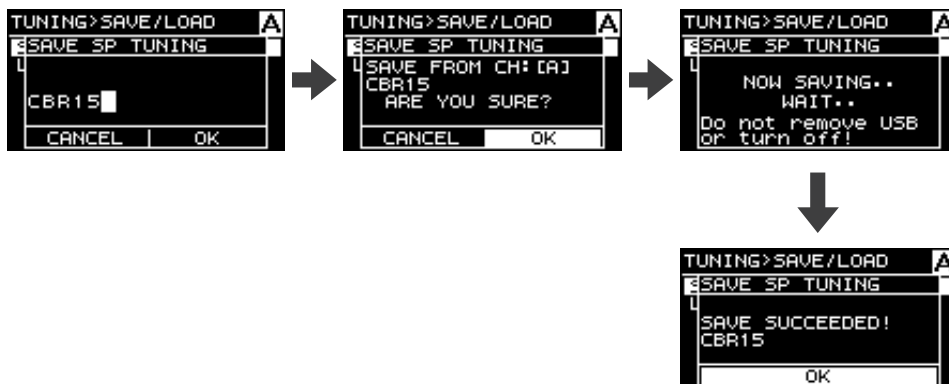
USBメモリーを使ってSP TUNING DATAをセーブ/ロードできます。



#### ① SAVE SP TUNING

設定をUSBメモリーに保存します。

選択するとファイル名を入力する画面が表示されます。メインノブを回して文字を入力する場所を選び、メインノブを押して文字入力モードに入ります。文字入力モードでは、メインノブを回して入力する文字を選び、メインノブを押して文字を確定します。文字入力モード中に[←](バック)キーを押すと、位置を選択する状態になります。この状態で「OK」を選択するとファイル名が確定します。ファイル名が確定すると、保存を確認する画面が表示されますので、「OK」を選択すると設定ファイルが保存されます。保存に成功した場合は確認画面が表示されますので、OKを選択するともとの画面に戻ります。



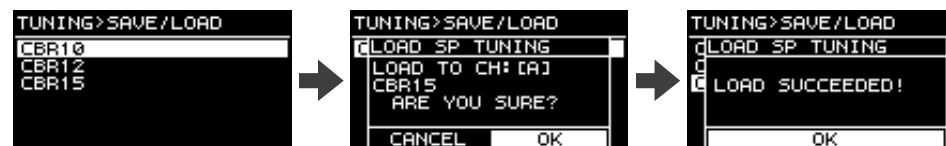
#### NOTE

- ファイル名は最大16文字まで入力できます。
- 入力できる文字はASCIIタイプと一部の記号です。

#### ② LOAD SP TUNING

USBメモリーに保存されている設定ファイルを読み込みます。

選択するとファイル名のリストが表示されます。メインノブを回して設定ファイルを選択して、メインノブを押すと確認画面が表示されます。「OK」を選択するとロードが始まります。ロードに成功した場合は確認画面が表示されますので、OKを選択するともとの画面に戻ります。



#### NOTE

- ファイル名が17文字以上のファイルは表示されません。
- PX本体で入力できる文字以外の文字を含むファイル名は表示されません。

## AMP PRESET画面

CONFIG WIZARD画面やD-CONTOUR画面などで設定したPXアンプの設定をアンププリセットとして保存できます。アンププリセットはPX本体に8つ保存できます。

鍵マーク：  
プロテクトされている  
アンププリセット

\*：現在選択している  
アンププリセット



操作するアンププリセットの番号をメインノブを回して選択し、メインノブを押して決定してください。操作を選択する画面が表示されます。



### RECALL (リコール)

保存したアンププリセットを呼び出します。現在のスピーカータイプと、選択したアンププリセットのスピーカータイプが表示されます。



現在のスピーカータイプ

選択したアンププリセットの  
スピーカータイプ

#### 警告

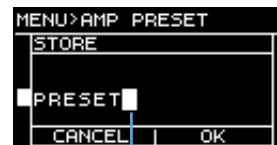
現在と異なるスピーカータイプを呼び出す場合、音量が大きく変化します。安全のためボリュームを絞った状態で実行してください。

#### NOTE

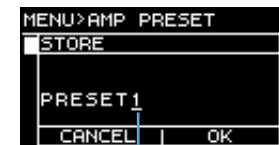
PX5/PX3のパワーブーストモードで保存したアンププリセットをPX10/PX8で呼び出すことはできません。

### STORE (ストア)

現在のPXアンプの設定にタイトルを付けてアンププリセットに保存します。



位置選択中のカーソル



文字選択中のカーソル

メインノブを回して文字を入力する場所を選び、メインノブを押して文字入力モードに入ります。文字入力モードでは、メインノブを回して入力する文字を選び、メインノブを押して文字を確定します。

文字入力モード中に[←](バック)キーを押すと、位置を選択する状態になります。

この状態で、「OK」を選択するとタイトルが確定します。

#### NOTE

プロテクトがかかっているアンププリセットに上書きはできません。

### CLEAR (クリア)

保存したアンププリセットを消去します。



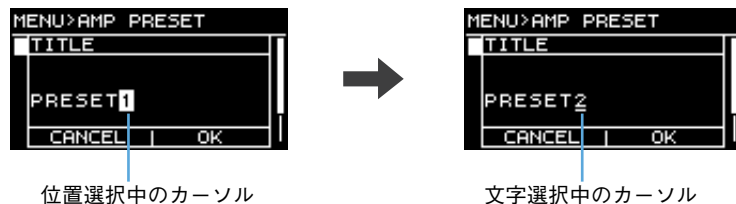
#### NOTE

プロテクトがかかっているアンププリセットや現在選択しているアンププリセットは消去できません。



## ■TITLE (タイトル)

保存したアンププリセットのタイトルを編集します。



メインノブを回して文字を入力する場所を選び、メインノブを押して決定します。それから、メインノブを回して入力する文字を選び、メインノブを押して決定します。文字選択中に[←](バック)キーを押すと、位置を選択する状態になります。この状態で、「OK」を選択するとタイトルが確定します。

### NOTE

プロテクトがかかっているアンププリセットのタイトルは編集できません。

## ■PROTECT (プロテクト)

保存したアンププリセットを誤って変更したり消去したりすることを防ぎます。オンにすると、TITLEやCLEAR、上書きのSTOREができなくなります。



## UTILITY画面

PXアンプの機器の状態を設定したり、データをUSBメモリーに保存したりUSBメモリーから読み込んだりします。



### ■ PANEL SETUP (パネル設定)

フロントパネルの表示方式を設定します。



#### ① BRIGHTNESS

ディスプレイのバックライトの明るさを設定します。

#### ② BLACKOUT

<アドバンスモードのみ>

10秒間パネル操作をしなかった場合に、ディスプレイの表示がオフ(ブラックアウト状態)になります。

#### NOTE

- 「BLACKOUT」がオンでも、[POWER]インジケータ、[ALERT]インジケータ、[PROTECT]インジケータ、[LIMIT]インジケータは通常どおり点灯します。
- 「BLACKOUT」がオフのときでも、ディスプレイ保護のため、1分間の無操作で画面が暗くなります。そのまま20分間の無操作でディスプレイの表示が消えます。再度表示させるには、フロントパネルのいずれかのキーを押すか、ノブを回してください。

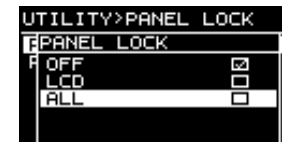
### ■ PANEL LOCK (パネルロック)

誤ってPXアンプを操作しないように、パネルロックを設定します。その際に、PINコードという4桁の認証番号を設定することもできます。



#### ① PANEL LOCK

フロントパネルをロックします(パネルロック)。設定には以下の3通りがあります。



- **OFF** : パネルロックしません。
- **LCD** : ディスプレイ表示に対する操作がロックされます。ボリュームノブの操作やミュートは可能です。
- **ALL** : パネルロックを解除する操作以外はできません。

#### NOTE

- パネルロックを解除する方法は、「[パネル操作](#)」 - 「[パネルロック](#)」(14ページ)を参照してください。
- PINコードを設定している場合、パネルロックを「OFF」から「LCD」や「ALL」に変更するときにもPINコードの入力が必要です。

#### ② PIN CODE

パネルロックのPINコード(任意の4桁の数字)を設定します。PINコードを設定すると、パネルロックを解除するときにPINコードの入力が必要になります。

#### NOTE

- PINコードを忘れた場合、初期化しないと解除できません。初期化方法については、「[PXアンプの初期化](#)」(37ページ)を参照してください。
- 初期状態ではPINコードは「0000」に設定されています。PINコードが「0000」の場合、パネルロックを解除するときにPINコードを入力する必要がありません。

● PINコードを設定するには

1. PINコード入力画面を開く。

MENU画面→UTILITY画面→PANEL LOCK画面で「PIN CODE」(34ページ)を選んでください。

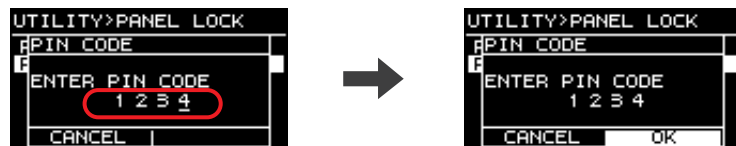
PINコードの1桁目にカーソルがあります。



2. メインノブを回して数字を選び、メインノブを押して確定する。

確定すると次の桁に移動します。

3. 同じように操作して、2桁目以降も確定する。



**NOTE**

設定の途中でPINコードの入力を修正する場合は、[←](バック)キーを押し、メインノブで修正したい桁を選択してください。

4. 4桁入力したあと、「OK」を選択する。

PINコードが確定します。



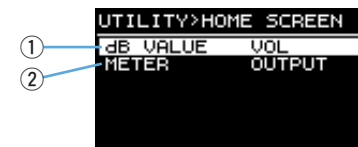
**NOTE**

PINコードを「0000」にすると、PINコードが設定されていない状態になります。パネルロックを設定するときや解除するときPINコードの入力が不要です。

■ HOME SCREEN (HOME画面)

<アドバンスモードのみ>

HOME画面の表示内容を設定します。



① dB VALUE

HOME画面のボリューム表示部分に表示する数値の種類を選びます。

- VOL : 入力ボリューム
- GAIN : トータルゲイン (入力端子からスピーカー出力端子までのゲイン)

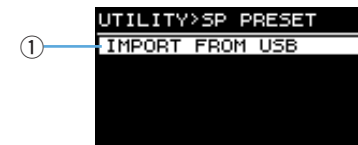
② METER

レベルメーターに表示するレベルを入力信号または出力信号から選びます。

- INPUT : 入力信号のレベル
- OUTPUT : 出力信号のレベル

■ IMPORT SP PRESET (スピーカープリセット読み込み)

ダウンロードしてUSBメモリーに保存したスピーカープリセットをPXアンプに読み込みます。



① IMPORT FROM USB

USBメモリーからスピーカープリセットを読み込みます。

**NOTE**

スピーカープリセットはヤマハプロオーディオサイトからダウンロードできます。

## ■ DEVICE BACKUP (デバイス バックアップ)

### <アドバンスモードのみ>

PXアンプの全設定をUSBメモリーに保存したり読み込んだりします。複数のPXアンプを同じ設定にしたり、同じ設定で別のPXアンプに入れ替えたりするときにも使用します。



### ⚠ 警告

現在と異なるスピーカータイプを呼び出す場合、音量が大きく変化します。安全のためボリュームを絞った状態で実行してください。

#### ① SAVE TO USB

本体内のすべての設定データをUSBメモリーに保存します。

#### ② RESTORE FROM USB

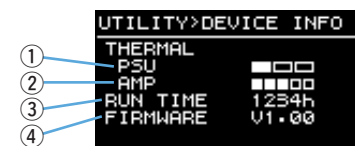
USBメモリーに保存した設定データを読み込みます。

### NOTE

PX5/PX3のパワーブーストモードで保存した設定をPX10/PX8で呼び出すことはできません。

## ■ DEVICE INFORMATION (デバイス情報)

PXアンプ内部の状態を表示します。



#### ① THERMAL PSU

電源部の温度を3段階表示します。表示が最大になった場合、リミッターがかかります。

#### ② THERMAL AMP

アンプ部の温度を5段階で表示します。温度に応じてリミッターがかかります。

#### ③ RUN TIME

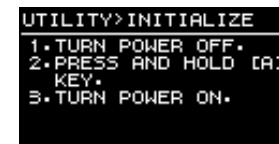
機器の総稼働時間を表示します。

#### ④ FIRMWARE

ファームウェアのバージョンを表示します。

## ■ INITIALIZE (初期化)

PXアンプ内部のデータの初期化方法をディスプレイに表示します。



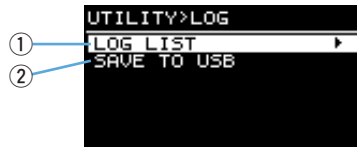
### NOTE

初期化方法については、「PXアンプの初期化」(37ページ)を参照してください。

## LOG (ログ)

<アドバンスモードのみ>

PXアンプ内部の動作ログを表示したりUSBメモリーに保存したりします。

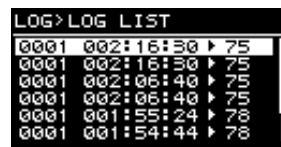


### ① LOG LIST

PXアンプの内部に記録された動作ログ全体を表示します。

ログはイベントが発生した順番で表示します。時間情報の表示は、「NNNN HHH:MM:SS」の形式になります。この場合、NNNN回目に電源を入れてから、HHH時間MM分SS秒後に発生したことを示します。

#### • 動作ログの表示



メインノブを回してイベントを選択し、メインノブを押して決定すると、詳細画面が表示されます。



#### NOTE

動作ログは、HOME画面に[**i**]アイコンが表示された場合に、[**i**]アイコンをメインノブで選択し決定したときも表示します。

### ② SAVE TO USB

最新の動作ログをUSBメモリーに保存します。ユーザーサポートのための機能です。

## PXアンプの初期化

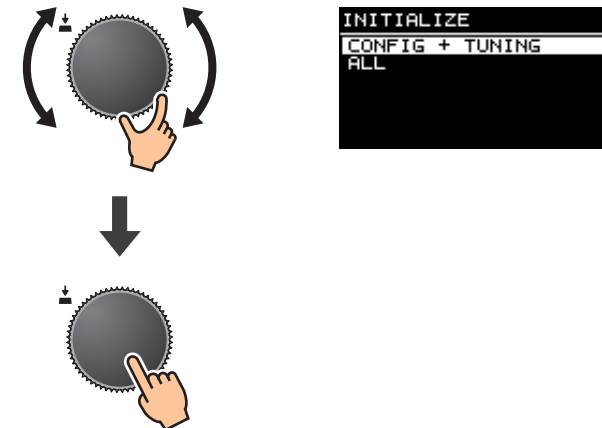
PXアンプの初期化には、3通りの方法があります。

### ● カレントパラメーターを初期化するには

1. [A]キーを押しながら電源を入れる。



2. メインノブを回して「CONFIG+TUNING」を選択し、メインノブを押す。

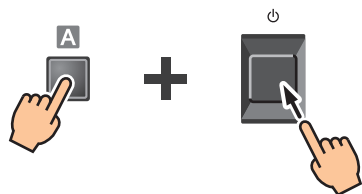


#### NOTE

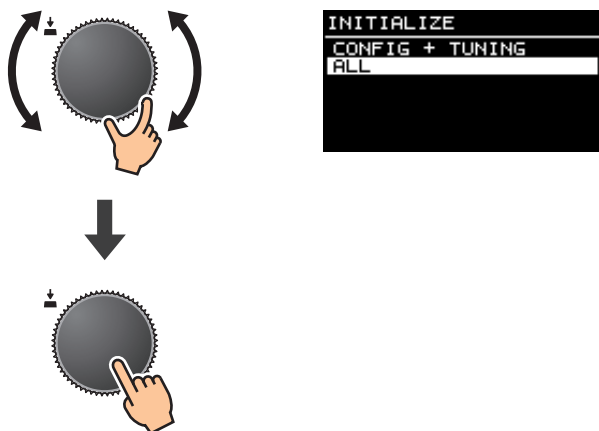
カレントパラメーターは、CONFIG WIZARD画面とTUNING画面で設定するパラメーターです。パラメーターについては、「機能一覧」(39ページ)を参照してください。

● すべてのユーザーデータを初期化するには

1. [A]キーを押しながら電源を入れる。



2. メインノブを回して「ALL」を選択し、メインノブを押す。

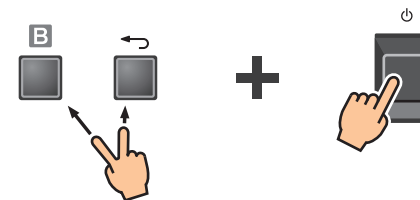


**NOTE**

- ユーザーデータは、CONFIG WIZARD画面、AMP PRESET画面、TUNING画面とUTILITY画面で設定するパラメーターです。パラメーターについては、「機能一覧」(39ページ)を参照してください。
- PINコードも初期化されます。

● すべてのユーザーデータとスピーカープリセットを初期化するには

[B]キーと[←](バック)キーを同時に押しながら電源を入れてください。初期化を確認する画面は表示しませんので、ご注意ください。



**NOTE**

動作ログは消去しません。

# 資料

## 機能一覧

パラメーター		初期値	ベーシックモード	アドバンスモード	アンプ プリセット対象	CH LINK/ CH COPY対象	SP TUNING DATA対象	
コンフィグ	INPUT SENSITIVITY/GAIN		+4 dBu	(設定できません)	Sensitivity: +4 dBu, +14 dBu Gain: 32 dB, 26 dB	○	—	
	AMP MODE	SP TYPE	FULL + FULL	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FULL + FULL</li> <li>・ SUB + SUB</li> <li>・ FULL + SUB</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ FULL + FULL</li> <li>・ SUB + SUB</li> <li>・ FULL + SUB</li> <li>・ BI-AMP</li> <li>・ FULL(MONO) POWER BOOST</li> <li>・ SUB(MONO) POWER BOOST</li> </ul>			
		ROUTING	DUAL	(設定できません)				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DUAL</li> <li>・ PARALLEL</li> <li>・ SINGLE</li> <li>・ SUM</li> </ul>
	SPEAKER	IMPEDANCE	8Ω	(設定できません)	4Ω, 8Ω, 12Ω, 16Ω			○
デバイス	ATT		—	-∞~0 dB (31段階)		—	—	
	MUTE		OFF	OFF, ON		—	—	
インプット プロセッサー	D-CONTOUR	MODE	OFF	OFF, FOH/MAIN, MONITOR		○	○	
		DEPTH	5	1~10				
	DELAY	ON/OFF	OFF	(設定できません)	OFF, ON			
		TIME(sec) DISTANCE(meter) DISTANCE(feet)	0 ms 0 meter 0 feet		0~74.0 ms 0~25.4 meter 0~83.4 feet			

パラメーター		初期値	ベーシックモード	アドバンスモード	アンプ プリセット対象	CH LINK/ CH COPY対象	SP TUNING DATA対象		
スピーカー プロセッサー	X-OVER	FREQ.	100 Hz	20.0 Hz～20.0 kHz		○	○		
	HPF	TYPE	24 dB BUT	OFF(THRU), ON(24 dB BUT)	20 types *1				
		FREQ.	20 Hz	20.0 Hz～20.0 kHz					
		Gc	-3 dB	(設定できません)	-6 dB～+6 dB				
	LPF	TYPE	THRU	OFF(THRU), ON(24 dB BUT)	20 types *1				
		FREQ.	20 kHz	20.0 Hz～20.0 kHz					
		Gc	-3 dB	(設定できません)	-6 dB～+6 dB				
	POLARITY		NORMAL	NORMAL, INVERTED				○ (CH COPYのみ)	
	SPEAKER DELAY		OFF	(設定できません)	0.00～5.00 ms 0.000～1.716 meter 0.00～5.64 feet			○	
	EQ	EQ ON	ON	(設定できません)	OFF, ON				
		TYPE (×6)	PEQ		10 types *2				
		BYPASS (×6)	OFF		OFF, ON				
		FREQ. (×6)	Bandごと *3		20.0 Hz～20.0 kHz				
		GAIN (×6)	0 dB		-18.0 dB～+18.0 dB				
Q (×6)		4.2	63.0～0.1						
LEVEL		0 dB	(設定できません)	-10 dB～+10 dB		○ (CH COPYのみ)			
LIMITER	ON/OFF	OFF	(設定できません)	OFF, ON		○			
	THRESHOLD	1500 W		10～1500 W					
	SP IMPEDANCE	8Ω		4Ω, 8Ω, 12Ω, 16Ω					
	ATTACK/RELEASE	—		スピーカープリセットで設定					
ユーティリティ	PANEL SETUP	BRIGHTNESS	6	1～10		—	—		
		BLACKOUT	OFF	(設定できません)	OFF, ON				
	PANEL LOCK	LOCK	OFF	OFF, LCD, ALL					
		PIN CODE	0000	4桁の数字 (未設定の場合は「0000」)					
	HOME SCREEN	dB VALUE	VOL	(設定できません)	VOL, GAIN				
LEVEL METER		OUTPUT	(設定できません)	INPUT, OUTPUT					

\*1: THRU, 6dB/OCT, 12dB ADJGc, 12dB BUT, 12dB BESSL, 12dB L-R, 18dB ADJGc, 18dB BUT, 18dB BESSL, 24dB ADJGc, 24dB BUT, 24dB BESSL, 24dB L-R, 36dB ADJGc, 36dB BUT, 36dB BESSL, 48dB ADJGc, 48dB BUT, 48dB BESSL, 48dB L-R

\*2: PEQ, L.SHELF(6dB/Oct), L.SHELF(12dB/Oct), H.SHELF(6dB/Oct), H.SHELF(12dB/Oct), HPF, LPF, APF(1st), APF(2nd), Horn EQ

\*3: 31.5 Hz, 100 Hz, 315 Hz, 1.0 kHz, 3.15 kHz, 10.0 kHz



パラメーター		初期値	ベーシックモード	アドバンスモード	アンプ プリセット対象	CH LINK/ CH COPY対象	SP TUNING DATA対象	
その他	CH LINK	—	(使用できません)	○	—	—	—	
	AMP PRESET	RECALL	—		○ (全8個)	—	—	—
		STORE						
		CLEAR						
		TITLE						
		PROTECT						
	SP PRESET	RECALL(WIZARD)	—		○	—	—	—
		IMPORT FROM USB						
	DEVICE BACKUP	SAVE TO USB	—	(使用できません)	○	—	—	—
		RESTORE FROM USB						
	DEVICE INFORMATIO N	THERMAL PSU	—		○	—	—	—
		THERMAL AMP						
		FIRMWARE VERSION						
	LOG	LOGGING	—	○ (4096個)		—	—	—
LOG LIST		○						
SAVE TO USB		(使用できません)		○				
INITIALIZE	CONFIG + TUNING	—		○	—	—	—	
	ALL							
	FACTORY DATA RESET							
FIRMWARE UPDATE	—	—		○	—	—	—	

## メッセージリスト

番号	メッセージ	症状	対策
01～06	SYSTEM ERROR	機器が正常に起動していません。	電源をいったんオフにして、6秒以上間隔を空けてから電源をオンにしてください。問題が解決しない場合、初期化(37ページ)を実行すると解決する場合があります。それでも解決しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。
07	SP PRESET DATA LOST	スピーカープリセットファイルが壊れています。	USBメモリーを使ってプリセットファイルをロードしてください。問題が解決しない場合、初期化(37ページ)を実行すると解決する場合があります。それでも解決しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。
08	WRONG SP PRESET DATA	本体内のスピーカープリセットデータが壊れています。スピーカープリセットファイルをUSBメモリーからロード中に障害が発生した可能性があります。	USBメモリーを使ってプリセットファイルをロードしてください。問題が解決しない場合、初期化(37ページ)を実行すると解決する場合があります。それでも解決しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。
20	OUTPUT CURRENT OVER[*]	スピーカー端子、アンプの出力端子、ケーブルなどがショートしたため、回路を保護しています。または、接続スピーカーのインピーダンスが低すぎてアンプが過負荷になっているため、回路を保護しています。(*:チャンネル)	スピーカーが破損していないか、合成インピーダンスが低すぎないかを確認し、スピーカーの接続などを見直してください。
21	AMP TEMP TOO HIGH	アンプ部の温度が規定値を超えました。出力の負荷が極端に高い状態になっています。Aチャンネルのみ負荷が高いときに起こりやすくなります。	連続して大電力を出力すると高温になりますので、出力レベルを下げてください。Aチャンネルに負荷が偏っている場合は、Bチャンネルや他のアンプに接続することで負荷を分散させてください。また、冷却用ファンの吸気口にゴミや異物が詰まっていないか確認して、掃除してください。
22～24	LIMITED BY OVERHEAT	アンプが高温になったため、出力にリミッターをかけました。	高負荷状態が連続している場合は出力レベルを下げてください。また、冷却用ファンの吸気口にゴミや異物が詰まっていないか確認して、掃除してください。
25	MUTED BY OVERHEAT	アンプが高温になったため、出力がミュートされました。	高負荷状態が連続している場合は出力レベルを下げてください。また、冷却用ファンの吸気口にゴミや異物が詰まっていないか確認して、掃除してください。
26～27	POWER SUPPLY TEMP TOO HIGH	電源部の温度が異常に高くなったため、冷却用ファンを最高速で回し、リミッターを掛けました。	継続して使用すると電源部が故障する可能性があります。ただちに使用を中止するか、出力レベルを下げてください。また、冷却用ファンの吸気口にゴミや異物が詰まっていないか確認して、掃除してください。
33	SPEAKER IMPEDANCE TOO LOW[*]	スピーカーのインピーダンスが低すぎます。(*:チャンネル)	スピーカーが破損していないか、合成インピーダンスが低すぎないかを確認し、スピーカーの接続などを見直してください。
50	USB:COMPATIBLE DEVICES NOT FOUND	使用可能なUSBメモリーが装着されていません。	使用可能なUSBメモリーを装着してください。動作確認済のUSBメモリーは、ヤマハプロオーディオサイト( <a href="https://www.yamahaproaudio.com/">https://www.yamahaproaudio.com/</a> )でご確認できます。
51	USB:NO FILE SYSTEM	USBメモリーのファイルシステムを読むことができません。	FAT32またはFAT16で正常にフォーマットされたUSBメモリーをお使いください。
52	USB:FILE NOT FOUND	USBメモリーに対象ファイルが見つかりません。	USBメモリーにファイルが保存されていることを確認して、もう一度やり直してください。
53	USB:ILLEGAL FILE	不正なファイルです。	正常なファイルに入れ替えてやり直してください。

番号	メッセージ	症状	対策
54	USB:INCOMPATIBLE FORMAT	互換性のないファイルフォーマットです。	正常なファイルに入れ替えてやり直してください。
55	USB:I/O ERROR	USBメモリーを正しく読み書きできません。	お使いのUSBメモリーが正常に動作することをパソコンなどを使ってご確認ください。 動作確認済のUSBメモリーをご使用ください。動作確認済のUSBメモリーは、ヤマハプロオーディオサイト ( <a href="https://www.yamahaproaudio.com/">https://www.yamahaproaudio.com/</a> ) でご確認ください。 それでも異常が解消しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。
56	USB:STORAGE FULL!	USBメモリーの残り容量が不足しています。	空き容量が十分あるUSBメモリーをご使用ください。
58	USB:LOAD ERROR	USBメモリーからのファイルの読み込み中に障害が発生しました。PXアンプ内のデータが破壊された可能性があります。	もう一度やり直してください。USBメモリーにアクセス中はフロントパネルの[USB]インジケータが点滅します。この間は絶対に抜かないでください。
65	INCOMPATIBLE DATA LOADED	読み込んだカレントパラメーターに互換性がないため、デフォルト設定に戻しました。PX5/PX3のパワーブーストモードで保存したファイルをPX10/PX8で読み込んだ場合にも起こります。	—
70	POWER TURNED ON	電源がオンになりました。	—
71	POWER TURNED OFF	電源がオフになりました。	—
72	SHORT INTERRUPTION	瞬停を検出したため、シャットダウン処理を実行した後、再起動しました。	安定した電源に接続してください。
73	FIRMWARE UPDATE COMPLETED	ファームウェアのアップデートが完了しました。	—
74	PANEL UNLOCKED	パネルロックを解除しました。	—
75	SP PRESET RECALLED[*]	スピーカープリセットをリコールしました。(*: スピーカープリセット番号)	—
76	SP PRESET LOADED	USBメモリーからスピーカープリセットをロードしました。	—
77	AMP PRESET RECALLED[*]	アンプリセットをリコールしました。(*: アンプリセット番号)	—
78	AMP PRESET STORED[*]	アンプリセットをストアしました。(*: アンプリセット番号)	—
79	AMP PRESET CLEARED[*]	アンプリセットをクリアしました。(*: アンプリセット番号)	—
80	BACKUP DATA LOADED	DEVICE BACKUP画面の「RESTORE FROM USB」で設定データをUSBメモリーから読み込みました。	—
90	CONFIG + TUNING DATA INITIALIZED	コンフィグおよびチューニングデータを初期化しました。	—
91	ALL DATA INITIALIZED	すべてのパラメーター設定を初期化しました。	—
92	FACTORY DATA RESET	すべてのスピーカープリセットとパラメーター設定を初期化しました。	—

## 困ったときは(トラブルシューティング)

症状	考えられる原因	対策
しばらく操作しないと、ディスプレイの表示が消える。	ディスプレイを保護するため、PXアンプを20分間操作しないと、ディスプレイの表示が消えます。	フロントパネルのいずれかのキーを押すかメインノブを回すと、ディスプレイは再度表示します。
	ブラックアウトモードがオンの場合、PXアンプを約10秒間操作しないと、ディスプレイのバックライトがオフになります。	フロントパネルのいずれかのキーを押すと、ディスプレイのバックライトがオンになります。ブラックアウトモードをオフにすると、PXアンプを操作しない状態でもバックライトがオフにならなくなります。
[PROTECT]インジケータが点灯し、ディスプレイに「OUTPUT CURRENT OVER」と表示する。	スピーカー端子、アンプの出力端子、ケーブルなどがショートしたため、回路を保護しています。	電源を落としてから、スピーカー端子やケーブルなどにショートしている箇所がないか確認して、本体の電源を入れ直してください。
	接続スピーカーのインピーダンスが低すぎてアンプが過負荷になっているため、回路を保護しています。	スピーカーが破損していないか、合成インピーダンスが低すぎないかを確認し、スピーカーの接続などを見直してください。
[PROTECT]インジケータが点灯し、ディスプレイに「AMP TEMP TOO HIGH」と表示する。	アンプ内部が高温になっているため、サーマルプロテクションが動作して回路を保護しています。	通風状態を調べ、放熱対策を施してください。その後、本体の温度が下がるまで待ってから電源を入れ直してください。
[CLIP/LIMIT]インジケータが点灯する。	入力信号が大きすぎたり出力が定格を超えたりしたため、信号がクリップしたりリミッターが動作したりして回路を保護しています。	入力端子に接続されている機器の出力レベルを下げるか、アンプのボリュームを下げてください。
電源が入らない。 突然電源が切れ、入れなおしてもすぐに切れる。	接続しているコンセントの電源の電圧が定格範囲から大きく外れています。	適切な電圧の電源に接続してください。
	障害物やほこりなどが換気口にあたり密閉されていたりして冷却が妨げられ、アンプ内部が高温になっています。	通風状態を調べ、放熱対策を施してください。その後、本体の温度が下がるまで待ってから電源を入れ直してください。
	出力レベルが高すぎます。	出力レベルを下げてください。
	故障しています。	接続しているスピーカーを外して、音を入力しないか、ボリュームを絞り切って電源を入れてみてください。それでも症状が改善しない場合は故障しています。 ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
スピーカーから出る音が歪んでいる。	入力レベルが入力感度の設定を超えています。	入力レベルに合わせて入力感度をアドバンスモードのCONFIG WIZARD画面で調整してください。
音がこもる。高音がでない。	フィルターがかかっています。フィルターの状態はHOME画面で確認できます。	MENU画面(TUNING画面)でフィルターの設定を変えてください。
「ROUTING」が「DUAL」以外の場合に、Bチャンネルの音が小さい。	Aチャンネルとの出力バランスを調整しているBチャンネルのボリュームノブが下がっています。	Bチャンネルのボリュームノブを上げてください。

症状	考えられる原因	対策
スピーカーから音が出ない。	ケーブルが正しく接続されていません。ボリュームノブを上げてもメーターが上がらない場合は、入力側の接続に問題がある可能性があります。メーターが上がっている場合は、出力側の接続に問題がある可能性があります。	入力端子と出力端子に正しく接続してください。出力側の接続では、信号が出ている端子に接続していることも確認してください。接続方法は「PXアンプの使用例」(4ページ)を参照してください。
	入力端子に接続しているミキサーの出力が絞られています。ボリュームノブを上げてもメーターが上がらない場合は可能性があります。	ミキサーの出力を上げてください。
	ボリュームノブでレベルが下がっています。	ボリュームノブを調整してください。
	ミュート機能がオンになっています。ミュート機能がオンになっているかどうかは、HOME画面で確認できます。	ミュート機能をオフにしてください。
	保護回路が動作して、出力をミュートしています。保護回路が動作しているときは、[PROTECTION]インジケータが点灯しています。	保護回路が動作している原因を動作ログで確認して解消してください。
	パワーブーストモードになっています。(PX5、PX3のみ)	パワーブーストモードのときにはBチャンネルから音声信号が出力されません。パワーブーストモードを解除するか、ケーブルをつなぎ直してください。
パネル操作ができない。	パネルロックがかかっています。	パネルロックを解除してください。解除方法などは「パネルロック」(14ページ)を参照してください。
パラメーター設定を初期値に戻したい。	—	初期値に戻すように操作してください。初期値に戻すには「PXアンプの初期化」(37ページ)を参照してください。
インジケータが点灯する条件で点灯しない。ディスプレイが表示しない。	ブラックアウトモードがオンになっています。	一時的に点灯や表示させるにはパネル操作をしてください。常に点灯や表示させるには、ブラックアウトモードをオフにしてください。UTILITY画面の「PANEL SETUP」(34ページ)を参照してください。
ディスプレイが暗い。	PANEL SETUP画面の「BRIGHTNESS」を低い値に設定しています。	「BRIGHTNESS」を高い値に設定してください。
	「BLACKOUT」がオフのときでも、ディスプレイ保護のため、1分間の無操作で画面が暗くなります。	再度表示させるには、フロントパネルのいずれかのキーを押すか、ノブを回してください。
編集したカレントパラメーターが、電源をオフして再起動した後に編集前の値に戻る。	カレントパラメーターが自動保存される前に電源をオフしました。	電源をオフにする際は、編集してから3秒以上経ってから切るようにしてください。
USBメモリーへの読み書きに時間がかかる。	USBメモリーにファイルが多数保存されています。ファイルが多ければ多いほど、読み書きにかかる時間は長くなります。	PXアンプに必要なファイル以外を削除してください。

\* 上記の対策を実施しても症状が改善しない場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

## 一般仕様

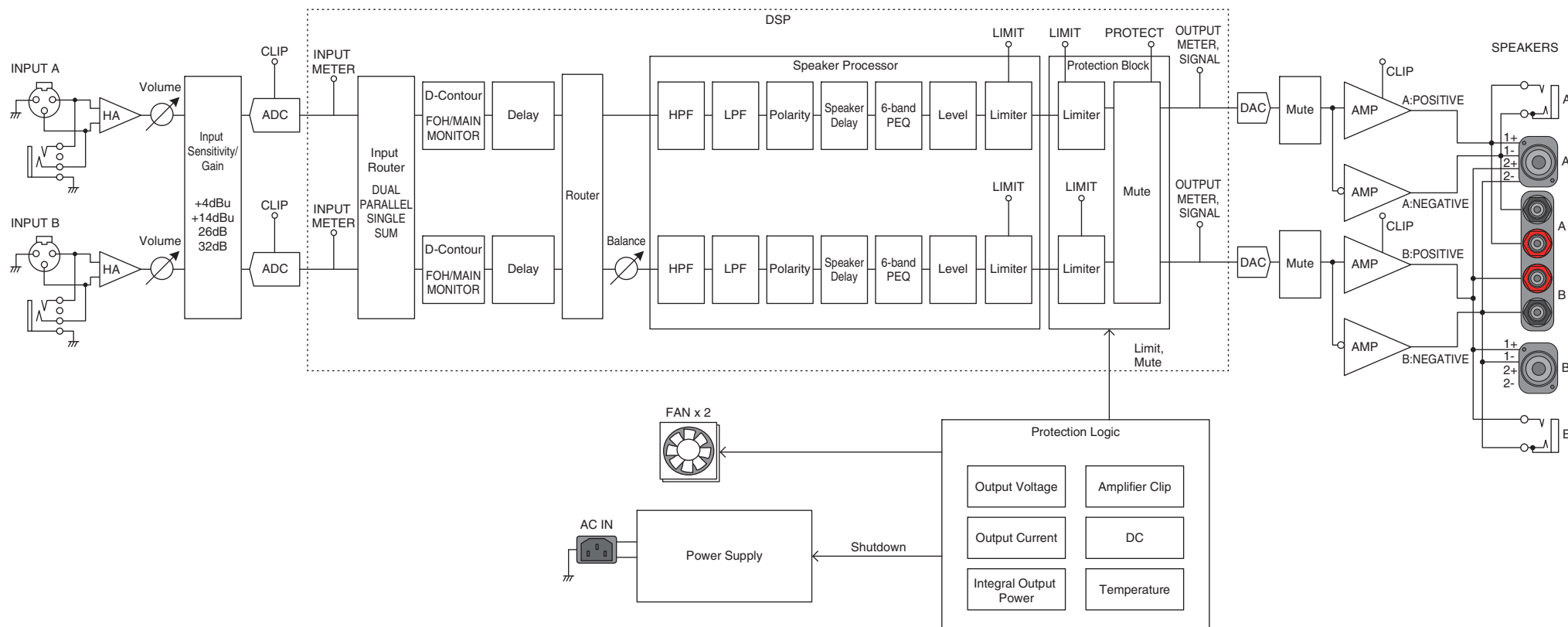
		PX10	PX8	PX5	PX3
<b>出力</b>		<b>100 V 50 Hz/60 Hz</b>			
	16Ω	500W×2	400W×2	250W×2	150W×2
1 kHz, non-clip, 20 msec burst, both channels driven	12Ω	660W×2	530W×2	330W×2	200W×2
	8Ω	1000 W×2	800 W×2	500 W×2	300 W×2
	4Ω	1200 W×2	1050 W×2	800 W×2	500 W×2
	2Ω	700 W×2	600 W×2	500 W×2	300 W×2
1 kHz, non-clip, 20 msec burst	16Ω/Power Boost Mode	—	—	400W×1	300W×1
	12Ω/Power Boost Mode	—	—	530W×1	400W×1
	8Ω/Power Boost Mode	—	—	800 W×1	600 W×1
	4Ω/Power Boost Mode	—	—	1200 W×1	1000 W×1
<b>増幅方式 (出力回路)</b>		Class D、バランス出力回路 (BTL)			
<b>全高調波歪率</b>	1 kHz, 10 W	0.1%			
	1 kHz, half power	0.3%			
<b>周波数特性</b>	1 W, 8Ω, 20 Hz~20 kHz	± 1.0 dB			
<b>クロストーク</b>	Half power, 8Ω, 1 kHz, vol. max., input 150Ω shunt	≤ -60 dB			
<b>S/N比</b>	A-weighted, 8Ω, gain setting = +14 dBu	101 dB	101 dB	100 dB	100 dB
<b>電圧利得/感度</b>					
8Ω, volume max.	Gain setting: 32 dB	32.0 dB/+9.3 dBu	32.0 dB/+8.3 dBu	32.0 dB/+6.3 dBu	32.0 dB/+4.1 dBu
	Gain setting: 26 dB	26.0 dB/+15.3 dBu	26.0 dB/+14.3 dBu	26.0 dB/+12.3 dBu	26.0 dB/+10.1 dBu
	Gain setting: +4 dBu	37.3 dB/+4 dBu	36.3 dB/+4 dBu	34.3 dB/+4 dBu	32.1 dB/+4 dBu
	Gain setting: +14 dBu	27.3 dB/+14 dBu	26.3 dB/+14 dBu	24.3 dB/+14 dBu	22.1 dB/+14 dBu
8Ω, volume max., Power Boost mode	Gain setting: 32 dB	—	—	34.0 dB/+6.3 dBu	35.0 dB/+4.1 dBu
	Gain setting: 26 dB	—	—	28.0 dB/+12.3 dBu	29.0 dB/+10.1 dBu
	Gain setting: +4 dBu	—	—	36.3 dB/+4 dBu	35.1 dB/+4 dBu
	Gain setting: +14 dBu	—	—	26.3 dB/+14 dBu	25.1 dB/+14 dBu
<b>負荷保護</b>	POWER switch on/off	Output mute			
	Output voltage protection	Over voltage limiter, user configurable by wattage and speaker preset			
	DC-fault	Power supply shutdown (NOT restored automatically)			
<b>アンプ保護</b>	Thermal	Output limiter (Restored automatically) → Output mute (Restored automatically)			
	Over current	Output mute (Restored automatically)			
	Over voltage	Output limiter (Restored automatically)			
	Integrated Power Limit	Output limiter (Restored automatically)			
<b>電源保護</b>	Thermal	Output limiter (Restored automatically) → Power supply shutdown			
	Over voltage	Power supply shutdown			
	Over current	Power supply shutdown			

	PX10	PX8	PX5	PX3	
冷却	16 step variable speed fan × 2, front to rear airflow				
最大入力電圧	+24 dBu				
入力インピーダンス	20 kΩ (Balance), 10 kΩ (Unbalance)				
サンプリング周波数	48 kHz				
AD、DAコンバーター	AD: 24-bit linear, 128 times over sampling DA: 24-bit linear, 128 times over sampling				
信号処理	Input summing D-CONTOUR: FOH/MAIN, MONITOR, OFF Delay: 0 – 74msec HPF/LPF: cutoff frequency 20 Hz~20 kHz with polarity control Speaker processor: 6 band PEQ + Limiter + Delay				
遅延	Analog input to speakers			1.5 msec	
ユーザーアンププリセット	8 user amplifier presets				
出荷時スピーカープリセット	Speaker presets for Yamaha passive speakers				
端子	Analog input	XLR-3-31 × 2, 1/4" PHONE(TRS) × 2			
	Speakers	Neutrik speakON NL4 × 2, binding post × 2 pairs, 1/4" PHONE(TS) × 2			
	AC IN	AC inlet × 1 with AC cord clamp			
	USB	USB 2.0 Standard-A connector (female) for save/load, speaker preset update, firmware update with USB memory			
操作子	Front Panel	POWER switch, 31 step volume knob × 2, rotary encoder and switches for GUI control Operation lock feature (Full lock or Lock except volume and mute)			
	Display	128 × 64 pixel, mono color with brightness adjustment Auto display off feature			
インジケーター	POWER × 1 (green), ALERT × 1 (red), USB × 1 (green), PROTECT × 2 (red), CLIP/LIMIT × 2 (red), SIGNAL × 2 (green) Auto LED off feature				
電源条件	Depending on area of purchase; 100 V 50 Hz/60 Hz, 120 V 60 Hz, 220 V-240 V 50 Hz/60 Hz *1				
消費電力	1/8 MAX power, 4Ω, Pink noise at all channels	310 W	280 W	230 W	160 W
	Idle, 4Ω	60 W	60 W	55 W	55 W
使用温度	0°C~+40°C				
保存温度	-20°C~+60°C				
外形寸法 (W×H×D)	480 × 88 × 388 mm				
質量	7.4 kg	7.2 kg	6.9 kg	6.9 kg	

\*1 定格電源電圧の±10%の電圧で動作することを確認しています。

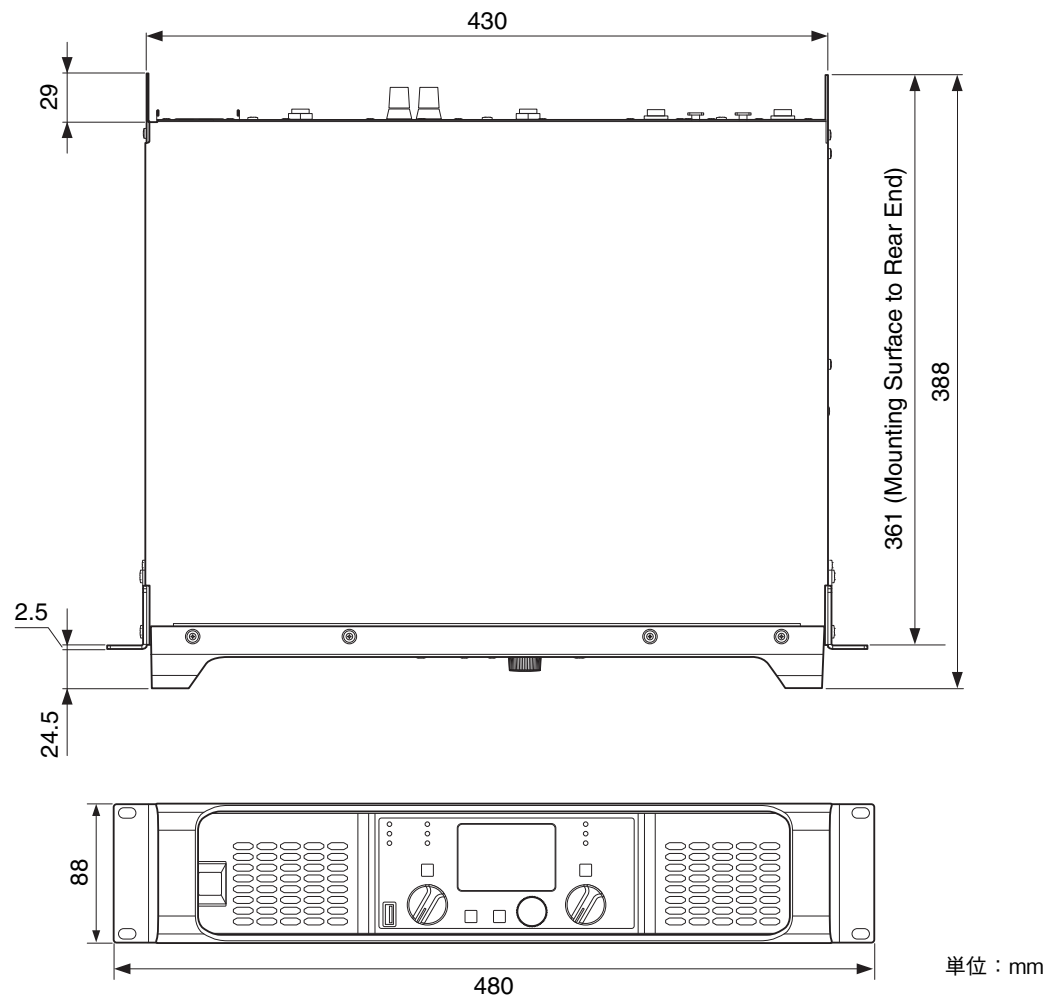
\* このマニュアルでは、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版のマニュアルにつきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

# ブロック図





## 寸法図



## 消費電流と熱放散

テスト信号：ピンクノイズ (22 Hzから22 kHzに帯域制限)、1 BTU = 1,055.06 J = 0.252 kcal、1 W = 0.86 kcal

## ● PX10

100 V/50 Hz		消費電流 (A) @100V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.8	57	0	57	195	49
1/8出力	8Ω/チャンネル	2.6	213	125	88	300	76
	4Ω/チャンネル	3.1	261	150	111	379	95
1/3出力	8Ω/チャンネル	5.6	472	333	139	474	120
	4Ω/チャンネル	7.2	608	400	208	710	179

110 V – 120 V/60 Hz		消費電流 (A) @120V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.7	60	0	60	205	52
1/8出力	8Ω/チャンネル	2.2	213	125	88	300	76
	4Ω/チャンネル	2.7	263	150	113	386	97
1/3出力	8Ω/チャンネル	4.6	466	333	133	454	114
	4Ω/チャンネル	5.9	597	400	197	672	169

220 V – 240 V/50 Hz		消費電流 (A) @230V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.5	62	0	62	212	53
1/8出力	8Ω/チャンネル	1.4	219	125	94	321	81
	4Ω/チャンネル	1.6	271	150	121	413	104
1/3出力	8Ω/チャンネル	2.7	471	333	138	471	119
	4Ω/チャンネル	3.3	602	400	202	689	174

## ● PX8

100 V/50 Hz		消費電流 (A) @100V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.8	57	0	57	195	49
1/8出力	8Ω/チャンネル	2.2	178	100	78	266	67
	4Ω/チャンネル	2.9	237	131	106	362	91
1/3出力	8Ω/チャンネル	4.6	386	267	119	406	102
	4Ω/チャンネル	6.4	543	350	193	659	166

110 V – 120 V/60 Hz		消費電流 (A) @120V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.7	60	0	60	205	52
1/8出力	8Ω/チャンネル	1.9	182	100	82	280	71
	4Ω/チャンネル	2.5	237	131	106	362	91
1/3出力	8Ω/チャンネル	3.8	385	267	118	403	101
	4Ω/チャンネル	5.4	542	350	192	655	165

220 V – 240 V/50 Hz		消費電流 (A) @230V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.5	62	0	62	212	53
1/8出力	8Ω/チャンネル	1.2	184	100	84	287	72
	4Ω/チャンネル	1.5	242	131	111	379	95
1/3出力	8Ω/チャンネル	2.2	385	267	118	403	101
	4Ω/チャンネル	3.0	544	350	194	662	167

## ● PX5

100 V/50 Hz		消費電流 (A) @100V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.8	46	0	46	157	40
1/8出力	8Ω/チャンネル	1.9	122	63	59	201	51
	4Ω/チャンネル	2.7	189	100	89	304	77
1/3出力	8Ω/チャンネル	3.6	253	167	86	293	74
	4Ω/チャンネル	5.6	424	267	157	536	135

110 V – 120 V/60 Hz		消費電流 (A) @120V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.8	54	0	54	184	46
1/8出力	8Ω/チャンネル	1.7	130	63	67	229	58
	4Ω/チャンネル	2.4	196	100	96	328	83
1/3出力	8Ω/チャンネル	3.1	259	167	92	314	79
	4Ω/チャンネル	4.8	428	267	161	549	138

220 V – 240 V/50 Hz		消費電流 (A) @230V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.5	57	0	57	195	49
1/8出力	8Ω/チャンネル	1.0	130	63	67	229	58
	4Ω/チャンネル	1.4	197	100	97	331	83
1/3出力	8Ω/チャンネル	1.9	259	167	92	314	79
	4Ω/チャンネル	2.9	434	267	167	570	144


## ● PX3

100 V/50 Hz		消費電流 (A) @100V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.8	46	0	46	157	40
1/8出力	8Ω/チャンネル	1.5	94	38	56	191	48
	4Ω/チャンネル	2.0	137	63	74	253	64
1/3出力	8Ω/チャンネル	2.6	174	100	74	253	64
	4Ω/チャンネル	3.9	285	167	118	403	101

110 V – 120 V/60 Hz		消費電流 (A) @120V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.8	54	0	54	184	46
1/8出力	8Ω/チャンネル	1.3	100	38	62	212	53
	4Ω/チャンネル	1.8	140	63	77	263	66
1/3出力	8Ω/チャンネル	2.3	183	100	83	283	71
	4Ω/チャンネル	3.4	291	167	124	423	107

220 V – 240 V/50 Hz		消費電流 (A) @230V	電力 (W)			熱放散	
			消費電力 (In)	消費電力 (Out)	放散電力	Btu/h	kcal/h
アイドル		0.5	57	0	57	195	49
1/8出力	8Ω/チャンネル	0.8	101	38	63	215	54
	4Ω/チャンネル	1.1	142	63	79	270	68
1/3出力	8Ω/チャンネル	1.4	181	100	81	276	70
	4Ω/チャンネル	2.1	293	167	126	430	108

## 索引

<b>A</b>		<b>H</b>		<b>S</b>	
[A]キー .....	8	HOME SCREEN .....	35	SAVE/LOAD .....	31
[AC IN]端子 .....	9	HOME画面 .....	15, 35	SENS./GAIN .....	24
[ALERT]インジケータ .....	8	HPF .....	27	[SIGNAL]インジケータ .....	8
AMP PRESET画面 .....	32	<b>I</b>		SINGLE .....	23
<b>B</b>		IMPORT SP PRESET .....	35	SP DELAY .....	28
[B]キー .....	8	INITIALIZE .....	36	SP IMPEDANCE .....	24
BI-AMP .....	22	[INPUT] A/B端子 .....	9	SP MODEL(アドバンスモード) .....	24
<b>C</b>		[  ]アイコン .....	15	SP MODEL(ベーシックモード) .....	20
CHANNEL COPY .....	30	<b>L</b>		SP SERIES(アドバンスモード) .....	24
CHANNEL LINK .....	30	LEVEL .....	29	SP SERIES(ベーシックモード) .....	20
CLEAR .....	32	LIMITER .....	30	SP TYPE(アドバンスモード) .....	22
[CLIP/LIMIT]インジケータ .....	8	LOG .....	37	SP TYPE(ベーシックモード) .....	20
CONFIG VIEWアイコン .....	15	LPF .....	27	[SPEAKERS] A/B端子 .....	9
CONFIG VIEW画面 .....	16	<b>M</b>		[SPEAKERS]端子の結線 .....	11
CONFIG WIZARD画面(アドバンスモード) .....	22	MENU画面 .....	17	STORE .....	32
CONFIG WIZARD画面(ベーシックモード) .....	20	MENU画面の操作方法 .....	17	SUB(MONO) .....	22
CONFIRMATION(アドバンスモード) .....	24	[MENU]キー .....	8	SUB + SUB .....	22
CONFIRMATION(ベーシックモード) .....	21	<b>N</b>		SUM .....	23
<b>D</b>		NEW CONFIG .....	22	<b>T</b>	
D-CONTOUR .....	25	<b>P</b>		TITLE .....	33
D-CONTOUR表示 .....	15	PANEL LOCK .....	34	TUNING画面 .....	25
DELAY .....	26	PANEL SETUP .....	34	<b>U</b>	
DEVICE BACKUP .....	36	PARALLEL .....	23	[USB]インジケータ .....	8
DEVICE INFORMATION .....	36	PINコード .....	34	[USB]端子 .....	8
DUAL .....	23	POLARITY .....	28	UTILITY画面 .....	34
<b>E</b>		[POWER]インジケータ .....	8	<b>V</b>	
EDIT CONFIG .....	22	PROTECT .....	33	VOL/BAL/GAIN表示 .....	15
EQ (6 Band PEQ) .....	29	[PROTECT]インジケータ .....	8	<b>W</b>	
EQ表示 .....	15	<b>R</b>		WIZARD MODE .....	22
<b>F</b>		RECALL .....	32	<b>X</b>	
FULL(MONO) .....	22	ROUTING .....	23	XLR端子 .....	9
FULL + FULL .....	22			X-OVER .....	26
FULL + SUB .....	22			<b>Y</b>	
				Y型プラグ .....	11

<b>ア</b>		スピーカータイプ(ベーシックモード) .....	20	バイディングポスト端子 .....	11
アドバンスモード .....	12	スピーカーの接続 .....	11	[←→](バック)キー .....	8
アラートメッセージ .....	14, 42	スピーカープリセット読み込み .....	35	パネル設定 .....	34
アンプゲイン .....	7	スピーカープロセッサ .....	7	パネルロック .....	14, 34
<b>イ</b>		スピーカー名称 .....	15	パラレルモード .....	23
閾値表示 .....	15	スピーカーモデル(アドバンスモード) .....	24	<b>フ</b>	
一般仕様 .....	46	スピーカーモデル(ベーシックモード) .....	20	フィルター表示 .....	15
インプットプロセッサ .....	7	スピコン端子 .....	11	フーン端子 .....	9
<b>ウ</b>		スレッシュホールド表示 .....	15	ブラックアウトモード .....	34
ウィザードモード .....	22	寸法図 .....	49	ブロック図 .....	48
<b>カ</b>		<b>セ</b>		プロテクト .....	33
画面構成 .....	13	接続、スピーカー .....	11	フロントパネル .....	8
カレントパラメーター .....	37	セットアップ .....	10	<b>へ</b>	
<b>キ</b>		<b>ソ</b>		ベーシックモード .....	12
基本操作 .....	12	操作ツリー (MENU画面) .....	18	<b>ホ</b>	
吸気口 .....	8	操作方法 (MENU画面) .....	17	ボリュームノブ .....	8
極性表示 .....	15	<b>タ</b>		ボリューム表示 .....	15
<b>ク</b>		タイトル .....	33	<b>ミ</b>	
クリア .....	32	<b>チ</b>		ミュート表示 .....	15
クリップ/リミットメッセージ .....	15	チャンネルコピー .....	30	<b>メ</b>	
クロスオーバー .....	26	チャンネルリンク .....	30	メインノブ .....	8
<b>コ</b>		<b>テ</b>		メッセージリスト .....	42
誤脱防止クランプ .....	9	ディスプレイ .....	8	<b>ユ</b>	
困ったときは .....	44	ディレイ .....	26	ユーザーデータ .....	38
<b>サ</b>		ディレイ表示 .....	15	<b>ラ</b>	
サムモード .....	23	デバイス情報 .....	36	ラックマウント .....	11
<b>シ</b>		デバイス バックアップ .....	36	<b>リ</b>	
出力設定 .....	6	デュアルモード .....	23	リアパネル .....	9
出力レベル .....	29	電源ボタン .....	8	リコール .....	32
消費電流 .....	50	<b>ト</b>		リミッター .....	30
初期化 .....	37	トラブルシューティング .....	44	<b>ル</b>	
シングルモード .....	23	<b>ニ</b>		ルーティング .....	6, 23
<b>ス</b>		入力感度 .....	7	<b>レ</b>	
ストア .....	32	入力感度/アンプゲイン .....	24	レベルメーター .....	15
スピーカーインピーダンス .....	24	入力設定 .....	6	<b>ロ</b>	
スピーカー極性 .....	28	<b>ネ</b>		ローパスフィルター .....	27
スピーカーシリーズ(アドバンスモード) .....	24	熱放散 .....	50	ログ .....	37
スピーカーシリーズ(ベーシックモード) .....	20	<b>ハ</b>			
スピーカータイプ .....	6	排気口 .....	9		
スピーカータイプ(アドバンスモード) .....	22	ハイパスフィルター .....	27		

ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト  
<https://www.yamahaproaudio.com/>

ヤマハダウンロード  
<https://download.yamaha.com/>